

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	オーラルコミュニケーション English Oral Communication	1単位	必修	演習	1年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>私たちが英語を通じてコミュニケーションをとるためには、言葉の意味や使い方のルールについて知っていなければならない。また、正しい発音の仕方も必要となる。この授業では、学生が英語でコミュニケーションを取りたい時に役立つ知識をしっかりと身につけ、スピーキングとリスニングの能力を向上させることを図ると共に日常的な会話ができるようになることを目的とする。</p>					
キーワード	英語 英語コミュニケーション 異文化	学修教育目標	<p>日常的なトピックについて、学生が英語でコミュニケーションをとる時に必要とされる正確なリスニング能力、並びにスピーキングでの正確な発音や抑揚を身につけると同時に、異文化理解を通じて会話における「倫理性」の向上も計ることを目標とする。</p>			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>各章のテーマに合わせ、語彙を増やすための単語学習、英語の聞き取り、会話練習、基本文法の復習、小文の読解を行う。テキストの英文を自然な発音で声に出して読み、お互いに聴きあい、また英文の仕組みとなる文法を皆で考えながら、内容を把握し考え合う。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<p>メディカル・イングリッシュやイングリッシュ・リーディングと密接に関連しており、必要な予備知識としては、まずは英語の語彙力となる。</p>						
教科書			参考書・リザーブドブック			
<p>書名：Welcome to Nippon! -Revised Edition- 著者名：田地野彰 他 出版社：朝日出版社</p>			<p>書名：看護師たまごの英語 40 日間トレーニングキット・ワークブック 基礎編 著者名：菱田 治子 出版社：アルク</p>			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践					
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践					
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践	英語でコミュニケーションをとる時に必要とされる正確なリスニング能力、並びにスピーキングでの正確な発音や抑揚を身につけることができる。				◎
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践					
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備、課題、演習などに主体的に取り組むことができる。				◎
	② 働きかけ力					
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	わかること、わからないことを明確にして課題や演習に取り組むことができる。				○
	② 計画力					
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の考えや質問に対する回答を口頭や文章でわかりやすく説明することができる。				○
	② 傾聴力	他者の意見や説明を丁寧に聞いて、理解することができる。				○
	③ 柔軟性	自分のルールややり方に固執せず、相手の意見やアドバイスを受け入れることができる。				○
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45	40		15				100
評価 の 指標	知識に関する評価		10	15						25
	技能に関する評価		10	10						20
	応用力に関する評価		10	10						20
	チームワークに関する評価		10			5				15
	関心・意欲に関する評価		5	5		10				20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
テキストに書かれた英文を読解し、内容に関して英語で説明をすることができ、躊躇することなく英語でコミュニケーションを図ることができる。					英文を音読し、内容を掴むことができる。英語の自然な発音を身につける。簡単な英語を聞き取ることができる。日常の情報を英語で伝えコミュニケーションを図ることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション・授業の進め方や課題がわかるシラバスや資料の配布と説明	学生によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	(予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。	30
	授業への取り組み・課題			
第2回 /	Unit 1 Giving Directions and Helping 道案内で使える英語表現	学生によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	(予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、Listening Check を確認する。	30
	授業への取り組み・課題			
第3回 /	Unit 2 Talking about Yourself 自己紹介で使える英語表現	学生によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	(予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、Listening Check を確認する。	30
	授業への取り組み・小テスト			
第4回 /	Unit 3 Host Family 留学生などを迎える時に使える英語表現	学生によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	(予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、Listening Check を確認する。	30
	授業への取り組み・小テスト			
第5回 /	Unit 4 Community by Train 電車の乗り換説明に使える英語表現	学生によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	(予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、Listening Check を確認する。	30
	授業への取り組み・小テスト			
第6回 /	Unit 5 Taking Classes 物事の描写に使える英語表現（1）	学生によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	(予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、Listening Check を確認する。	30
	授業への取り組み・小テスト			
第7回 /	Unit 6 Talking with a Teacher 褒める時に使える英語表現	学生によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	(予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、Listening Check を確認する。	30
	授業への取り組み・小テスト			
第8回 /	Unit 7 Finding Friends 自分の趣味や好みを伝える英語表現	学生によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	(予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、Listening Check を確認する。Unit 1-7 の総復習を行う。	30
	授業への取り組み・小テスト			
第9回 /	Unit 8 Potluck パーティーなどの集まりで使える英語表現	学生によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	(予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、Listening Check を確認する。	30
	授業への取り組み・小テスト			
第10回 /	Unit 9 Sumo 物事の描写に使える英語表現（2）	学生によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	(予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、Listening Check を確認する。	30
	授業への取り組み・小テスト			
第11回 /	Unit 10 Four Seasons 好きな季節の説明に使える英語表現	学生によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	(予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、Listening Check を確認する。	30
	授業への取り組み・小テスト			
第12回 /	Unit 11 Green Tea 物事の描写に使える英語表現（3）	学生によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	(予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、Listening Check を確認する。	30
	授業への取り組み・小テスト			
第13回 /	Unit 12 Japanese Food 料理に使える英語表現	学生によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	(予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、Listening Check を確認する。	30
	授業への取り組み・小テスト			
第14回 /	Unit 13 Part-Time Jobs アルバイト先で使える英語表現	学生によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	(予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、Listening Check を確認する。Unit 8-14 の総復習を行う。	30
	授業への取り組み・小テスト			
第15回 /	Unit 14 Shopping at a Clothing Shop 買い物で使える英語表現	学生によるスピーキングとリスニングの演習を基本として、授業を展開する。	(復習) Unit 1-14 の総復習を行う。	30
	授業への取り組み・小テスト			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	イングリッシュ・リーディング English Reading	1単位	選 択	演 習	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>SDGs とは、Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称で、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」を理念とし、貧困や不平等・格差、気候変動など地球規模で問題となっている諸課題を解決するために、国際社会が 2016 年から 2030 年までに持続可能でより良い世界を目指して達成すべき 17 の目標である。</p> <p>本授業では、英文読解を通して地球規模で進行する多様な問題を知り、学び、基礎的な知識を身につけることによって、グローバルな視点に立って、自ら考え行動する力を養い、英語で互いに意見を交換し自分の意見を述べるができる語学力及びコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。</p>					
キーワード	英語 パラグラフ 英文読解のルール 英語コミュニケーション 異文化	学修教育目標	リーディング・スキルの養成。パラグラフ単位の大意をつかみながら、長文全体の読解力を身につける。語彙、発音、文法の基礎を確認しながら英文を読む。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>英文の読解力を養成できるように授業を行う。英文ではパラグラフが文章構成の基本単位であり、それぞれのパラグラフの大意をつかみながら、全文が理解できるように進めていく。Vocabulary・イディオム・文法・構文などを予習しておくこと。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<p>「メディカル・イングリッシュ」の理解につながります。 Vocabulary・イディオム・文法・構文などの理解を通じて読解力の向上に資する。</p>						
教 科 書			参考書・リザーブドブック			
書 名：SDGs and Global Issues 著者名：Goro Yamamoto、 Jonathan D. Brown 出版社：松柏社			なし			
No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践					
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践					
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践					
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践					
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	英文の読解は、あらゆる知識を総動員して内容理解に取り組む積極的な作業であることを理解できる。				◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業に積極的に参加し、必要な内容を理解できるよう取り組むことができる。				◎
	② 働きかけ力					
	③ 実行力	質問に対する解答やパラグラフの内容をわかりやすく説明することができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	英文の内容・設問などの問題点を明確にして、その解決に取り組むことができる。				◎
	② 計画力	問題点の解決に向けて、文法・構文などの手順を理解できるよう取り組むことができる。				◎
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	世界を意識する。				○
	② 傾聴力	相手の立場を思う。				◎
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	30		20				100
評価 の 指標	知識に関する評価		35	25						60
	技能に関する評価		5							5
	応用力に関する評価		5			5				10
	チームワークに関する評価					10				10
	関心・意欲に関する評価		5	5		5				15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
リーディング・Vocabulary・読解力・文法・構文・設問に対する解答など各項目の理解度が80%以上である。					左記の各項目の理解度が70%である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 授業への取り組み	1. シラバスの説明 2. 授業の進め方について	(予習) シラバスで本授業の概要を確認しておく。	30
第2回 /	Unit 1 United Nations' Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標 授業への取り組み・課題	講義 グループワーク	(予習) テキストの英文を音読し、Vocabulary を確認する。 (復習) オーディオを聞きながら、文法事項や語彙について再確認しておく。	30
第3回 /	Unit 2 Children Suffering from Malnutrition 世界の食糧危機 授業への取り組み・課題	講義 グループワーク	(予習) テキストの英文を音読し、Vocabulary を確認する。 (復習) オーディオを聞きながら、文法事項や語彙について再確認しておく。	30
第4回 /	Unit 3 One Meal a Day 一日一食の生活 授業への取り組み・課題	講義 グループワーク	(予習) テキストの英文を音読し、Vocabulary を確認する。 (復習) オーディオを聞きながら、文法事項や語彙について再確認しておく。	30
第5回 /	Unit 4 U.S. Poverty and COVID-19 貧困とコロナウィルス 授業への取り組み・課題	講義 グループワーク	(予習) テキストの英文を音読し、Vocabulary を確認する。 (復習) オーディオを聞きながら、文法事項や語彙について再確認しておく。	30
第6回 /	Unit 5 Horseback Library 馬の図書館 授業への取り組み・課題	講義 グループワーク	(予習) テキストの英文を音読し、Vocabulary を確認する。 (復習) オーディオを聞きながら、文法事項や語彙について再確認しておく。	30
第7回 /	Unit 6 Girls' Literacy in Focus 質の高い教育をみんなに 授業への取り組み・課題	講義 グループワーク	(予習) テキストの英文を音読し、Vocabulary を確認する。 (復習) オーディオを聞きながら、文法事項や語彙について再確認しておく。	30
第8回 /	Unit 7 Renewable Energy in School 学校での再生可能エネルギー 授業への取り組み・課題	講義 グループワーク	(予習) テキストの英文を音読し、Vocabulary を確認する。 (復習) オーディオを聞きながら、文法事項や語彙について再確認しておく。	30
第9回 /	Unit 8 Europe's Largest Saltwater Lagoons 経済活動と塩湖の生態系破壊 授業への取り組み・課題	講義 グループワーク	(予習) テキストの英文を音読し、Vocabulary を確認する。 (復習) オーディオを聞きながら、文法事項や語彙について再確認しておく。	30
第10回 /	Unit 9 The Problem of Microplastics マイクロプラスチックによる海洋汚染 授業への取り組み・課題	講義 グループワーク	(予習) テキストの英文を音読し、Vocabulary を確認する。 (復習) オーディオを聞きながら、文法事項や語彙について再確認しておく。	30
第11回 /	Unit10 Clean Energy or Fossil Fuels 先進国の風力発電 授業への取り組み・課題	講義 グループワーク	(予習) テキストの英文を音読し、Vocabulary を確認する。 (復習) オーディオを聞きながら、文法事項や語彙について再確認しておく。	30
第12回 /	Unit 11 Sustainable Agricultural Practice 持続可能な農業 授業への取り組み・課題	講義 グループワーク	(予習) テキストの英文を音読し、Vocabulary を確認する。 (復習) オーディオを聞きながら、文法事項や語彙について再確認しておく。	30
第13回 /	Unit 12 E-waste、 India's Ever-mounting Challenge 電子ゴミ問題 授業への取り組み・課題	講義 グループワーク	(予習) テキストの英文を音読し、Vocabulary を確認する。 (復習) オーディオを聞きながら、文法事項や語彙について再確認しておく。	30
第14回 /	Unit 13 Limits of Green Energy グリーンエネルギーの限界 授業への取り組み・課題	講義 グループワーク	(予習) テキストの英文を音読し、Vocabulary を確認する。 (復習) オーディオを聞きながら、文法事項や語彙について再確認しておく。	30
第15回 /	まとめとふり返り 試験範囲の重要構文、イディオム等の総復習 授業への取り組み	講義	(予習) これまでの学修内容について、疑問点を整理しておく。 (復習) 総復習を行い、試験に備える。	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	メディカル・イングリッシュ Medical English	1単位	選 択	演 習	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	英語で話す・聞く・読む事により、医療英語に親しむ事ができる。 医療英語を通して、国際的な看護の視点を養う事が出来る。					
キーワード	英語 英語コミュニケーション 医療英語 異文化	学修教育目標	臨床現場で、初歩的な医療英語を用いた会話や文章が分かる。 臨床現場で、海外の文化・価値観に配慮した看護の大切さが分かる。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
テキストの各章のテーマに合わせ、医療に関する語彙を増やすための単語学習、英語の聞き取り、会話練習、基本文法の復習、小文の読解を行う。テキストの英文を自然な発音で声に出して読み、お互いに聴きあい、また英文の仕組みとなる文法を皆で考えながら、内容を把握し考え合う。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
メディカル・イングリッシュはオーラルコミュニケーションと密接に関連があり、春学期に開講するオーラルコミュニケーションの学修内容が予備知識や技能となる。						
教科書			参考書・リザーブブック			
書名：CHECK-UP! Basic English for Nursing 著者名：Akihiko Higuch、 John Tremarco 出版社：金星堂			なし			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践					
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践					
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践	臨床現場で、初歩的な医療英語を用いた会話や文章を理解できる。 臨床現場で、海外の文化・価値観に配慮した看護の大切さを理解できる。				◎
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践					
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備、課題、演習などに主体的に取り組むことができる。				◎
	② 働きかけ力					
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	わかること、わからないことを明確にして課題や演習に取り組むことができる。				○
	② 計画力					
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の考えや質問に対する回答を口頭や文章でわかりやすく説明することができる。				○
	② 傾聴力	他者の意見や説明を丁寧に聞いて、理解することができる。				○
	③ 柔軟性	自分のルールややり方に固執せず、相手の意見やアドバイスを受け入れることができる。				○
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の場合で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	30		20				100
評価 の 指標	知識に関する評価		35	10						45
	技能に関する評価		5	10						15
	応用力に関する評価		10			5				15
	チームワークに関する評価					10				10
	関心・意欲に関する評価			10		5				15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
英語で書かれた医療に関する情報や記事を検索・収集し、その内容や要旨を考える。人体の名称や病気等医学に関する基本的な専門用語の英単語が読める。医療現場での英語によるコミュニケーションを図ることができる。					医療に関する基礎的レベルの英語による聞き取り能力、会話力、読解力を身につけることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 授業の進め方と課題について	講義	(予習) シラバスで本授業の概要を確認しておく。	30
	授業への取り組み状況			
第2回 /	Chapter 1 May I help You? 初診受付の流れを学ぶ① 症状を伝える基本の表現を学ぶ	講義 グループワーク	(予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、文法事項や語彙について再確認しておく。	30
	授業への取り組み・小テスト			
第3回 /	Chapter 2 Where Do You Live? 初診受付の流れを学ぶ② 初診登録に必要な表現を学ぶ	講義 グループワーク	(予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、文法事項や語彙について再確認しておく。	30
	授業への取り組み・小テスト			
第4回 /	Chapter 3 Do You Have an Insurance Card? 初診受付の流れを学ぶ③ 保険に関する表現を学ぶ	講義 グループワーク	(予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、文法事項や語彙について再確認しておく。	30
	授業への取り組み・小テスト			
第5回 /	Chapter 4 What Department Do You Want to Visit? 患者を案内する 各診療科の名称を学ぶ	講義 グループワーク	(予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、文法事項や語彙について再確認しておく。	30
	授業への取り組み・小テスト			
第6回 /	Chapter 5 What Are Your Symptoms? 患者の症状を聞く 風邪症状の表現を学ぶ	講義 グループワーク	(予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、文法事項や語彙について再確認しておく。	30
	授業への取り組み・小テスト			
第7回 /	Chapter 6 Take One Tablet Three Times a Day 薬の処方について学ぶ 服用支持の表現を学ぶ	講義 グループワーク	(予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、文法事項や語彙について再確認しておく。	30
	授業への取り組み・小テスト			
第8回 /	Chapter 7 You're Suffering from Hay Fever 診察の流れを学ぶ アレルギー症状の表現を学ぶ	講義 グループワーク	(予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、文法事項や語彙について再確認しておく。	30
	授業への取り組み・小テスト			
第9回 /	Chapter 8 What Kind of Pain Is It? 外科診察の流れを学ぶ 痛みを表す表現を学ぶ	講義 グループワーク	(予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、文法事項や語彙について再確認しておく。	30
	授業への取り組み・小テスト			
第10回 /	Chapter 9 Let's Check Your Daily Activities 問診の流れを学ぶ 生活習慣を伝える表現を学ぶ	講義 グループワーク	(予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、文法事項や語彙について再確認しておく。	30
	授業への取り組み・小テスト			
第11回 /	Chapter 10 Let's Check Your Pulse and Blood Pressure 診察前の計測をおこなう 計測に関する表現を学ぶ	講義 グループワーク	(予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、文法事項や語彙について再確認しておく。	30
	授業への取り組み・小テスト			
第12回 /	Chapter 11 It's Going to Be a Long Day! 患者に検査をすすめる 精密検査に関する表現を学ぶ	講義 グループワーク	(予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、文法事項や語彙について再確認しておく。	30
	授業への取り組み・小テスト			
第13回 /	Chapter 12 You Have High Blood Sugar Levels 検査結果を説明する 数値を伝える表現を学ぶ	講義 グループワーク	(予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、文法事項や語彙について再確認しておく。	30
	授業への取り組み・小テスト			
第14回 /	Chapter 13 You Need to Control Your Diet 患者に入院をすすめる 健康指導の表現を学ぶ	講義 グループワーク	(予習) 次回学習するテキストの英文を音読し、演習問題を解く。 (復習) 再度、CD を聞いて、文法事項や語彙について再確認しておく。	30
	授業への取り組み・小テスト			
第15回 /	Chapter 1～13 のまとめ、ふり返り	講義	(予習) これまでの学修内容について、疑問点を整理しておく。 (復習) Unit 1-13 の総復習を行い、試験に備える。	30
	授業への取り組み			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	役立つ韓国語（入門） Korean Language (Basic Class)	1単位	選択必修	演習	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>日本は歴史的にも地理的にも朝鮮半島と密接な関係を持ってきました。一番近い国の言葉である韓国語が少しでも分かるということは、情報社会の仕事の上でも大変力になってくれることと思います。この授業では、韓国語の基礎を学びながら、韓国の風習や現在の韓国社会と接する機会にします。</p>					
キーワード	基本あいさつや日常会話などが分かるようになる。	学修教育目標	<p>旅行などの目的で韓国を訪問した場合、ハングルで書いてある看板や道案内を見て目的地に着くことができ、食堂でメニューをみて注文ができるようになることを目指します。</p>			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>日本語と一番近い言葉でもある韓国語だから一番やさしい言語でもあります。教科書を中心に練習して行くと自然に身につけることができます。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<p>教科書のハングル形を前もって覚えると理解がより早くできます。</p>						
教科書				参考書・リザーブドブック		
書名：韓国語 授業ノート 著者名：周相勲 出版社：周相勲				特になし		
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践	状況によって対応可能な会話の実力を身につける。				◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	怖がらず、誰にでも会話ができるようにする。				△
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践	在日が多い日本だからこそ多様な人々との韓国語でコミュニケーションができることを目指す。				◎
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	言葉に自信が持てるようにする。				○
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	少しでも韓国語ができることで周りにも頑張れるよう良い影響を与える。				△
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自ら考えながら学習できるようにする。				◎
	② 働きかけ力	学生達が外国語に対して楽しく勉強出来るようにすること。				○
	③ 実行力	自信をもって話すこと。				△
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	面白く授業に臨む。				◎
	② 計画力	毎日一言でも覚える習慣になるように				○
	③ 創造力	言いたいことの練習				△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	2人または、3人で会話練習しながら会話を高める。				◎
	② 傾聴力	集中できるようにする。				◎
	③ 柔軟性	とっさの時にも対応できるようにする。				◎
	④ 状況把握力	映画やドラマ、k-pop などを通じての学習などを使う。				○
	⑤ 規律性	毎回宿題などで習った学習を自分のものにする。				○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。				△
4. 倫理観	① 倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	20	10				20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		10	4	2				4	20
	技能に関する評価		10	4	2				4	20
	応用力に関する評価		10	4	2				4	20
	チームワークに関する評価		10	4	2				4	20
	関心・意欲に関する評価		10	4	2				4	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
韓国人と基本的なコミュニケーションが出来るレベル					ハンゲルの読み書きと韓国旅行などつさの時に簡単な会話も出来るレベル程度					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	現代韓国や韓国語について 韓国語と日本語の類似点 基本あいさつ表現確認チェック	基本あいさつを覚えること	予習：40分、復習：40分	80
第2回 /	ハングルの基本母音と基本子音1 基本母音の形と発音チェック	基本母音と基本子音の組合せ1	予習：40分、復習：40分	80
第3回 /	ハングルの基本母音と基本子音2 基本子音の形と発音チェック	基本母音と基本子音の組合せ2	予習：40分、復習：40分	80
第4回 /	合成母音 合成母音を組み合わせた単語を覚える。	合成母音の形と発音を覚える	予習：40分、復習：40分	80
第5回 /	激音の発音 濃音、激音のある単語の読みチェック	濃音、激音、平音の比較練習	予習：40分、復習：40分	80
第6回 /	パッチム（終声の仕組み） パッチムのある単語の読み方チェック 小テスト	パッチムの読み方と発音を覚える	予習：40分、復習：40分	80
第7回 /	～です/～ですか	主格助詞「은/는」の機能を学習	予習：40分、復習：40分	80
第8回 /	自己紹介	自己紹介文を覚える	予習：40分、復習：40分	80
第9回 /	日常生活	-아요/ 어요 表現を学習	予習：40分、復習：40分	80
第10回 /	物と位置	主格助詞「이/가」の機能を学習	予習：40分、復習：40分	80
第11回 /	ショッピング1 漢数詞	主格助詞「을/를」の機能を学習 漢数詞を覚える	予習：40分、復習：40分	80
第12回 /	ショッピング2 固有数詞	「이、그、저、어느」指示代名詞の活用 固有数詞を覚える	予習：40分、復習：40分	80
第13回 /	一日の日課 過去形	過去形の表現を学習	予習：40分、復習：40分	80
第14回 /	私の一日の日課	文章の読む練習	予習：40分、復習：40分	80
第15回 /	全体のまとめ 練習問題をチェック	全体的なまとめとレベルチェック	予習：40分、復習：40分	80

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	知って得する韓国語（応用） Korean Language (Advanced Class)	1単位	選択必修	演習	2年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>日本は歴史的にも地理的にも朝鮮半島と密接な関係を持ってきました。一番近い国の言葉である韓国語が少しでも分かるということは、情報社会の仕事の上でも大変力になってくれることと思います。この授業では、韓国語の基礎を学びながら、韓国の風習や現在の韓国社会と接する機会にします。</p>					
キーワード	挨拶 自己紹介 作文	学修教育目標	役に立つ韓国語応用終了後には、ハングル検定5級/4級に合格することを目標としている。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
韓国語の仕組みや文法は日本語と非常に似ているので二つの言葉の類似点を比較しながら学習しましょう						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
教科書の単語や基本表現などを前もって覚えると理解がより早くできます。						
教科書				参考書・リザーブブック		
書名：韓国語 授業ノート 著者名：周相勲 出版社：周相勲				特になし		
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践	状況によって対応可能な会話の実力を身につける。				◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	怖がらず、誰にでも会話ができるようにする。				△
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践	グローバル社会において活躍の場所を多様な場に広めることができる。				◎
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	言葉に自信が持てるようにする。				○
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	少しでも韓国語ができることで周りにも頑張れるよう良い影響を与える。				○
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	新しい言葉を学習する、ということから自ら積極的に取り組むことができる。				◎
	② 働きかけ力	学生達が外国語に対して楽しく勉強出来るようにすること。				△
	③ 実行力	日本語と韓国語との類似点や相違点を比較しながら学習を進めることができる。				○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	韓国語の仕組み、文法の形成、会話、作文など、段階的な学習を通して学修対象に対する計画力を高めることができる。				◎
	② 計画力	毎日一言でも覚える習慣になるように				○
	③ 創造力	言いたいことの練習				○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	2人または、3人で会話練習しながら会話力を高める。				◎
	② 傾聴力	集中できるようにする。				○
	③ 柔軟性	新たな知識を習得し会話ができる姿勢を学ぶことができる。				◎
	④ 状況把握力	映画やドラマ、k-popなどを通じての学習などを使う。				○
	⑤ 規律性	毎回宿題などで習った学習を自分のものにする。				○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。				△
4. 倫理観	① 倫理性	異国の言葉を学び異国の文化や価値観を理解することで他者との共存・共生の価値観の涵養ができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	30					20	100
評価の指標	知識に関する評価		30	10					4	44
	技能に関する評価		10	10					4	24
	応用力に関する評価		10	10					4	24
	チームワークに関する評価								4	4
	関心・意欲に関する評価								4	4
評価の要点										
評価方法		行動目標	評価の実施方法と注意点							
試験	①	レ	学期末に予め提示した課題に対して試験を行う。							
	②	レ								
	③	レ								
	④	レ								
	⑤	レ								
小テスト	①	レ	定期に授業の中で各学習内容に対してテストを行う。							
	②	レ								
	③	レ								
	④	レ								
	⑤	レ								
レポート	①									
	②									
	③									
	④									
	⑤									
成果発表 (口頭・実技)	①									
	②									
	③									
	④									
	⑤									
作品 (成果物)	①									
	②									
	③									
	④									
	⑤									
ポートフォリオ	①									
	②									
	③									
	④									
	⑤									
その他	①	レ	非定期的に授業の中で韓国語を口頭で練習を行う。							
	②	レ								
	③	レ								
	④	レ								
	⑤	レ								
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
簡単な会話のできる水準まで進める。					読み書きがしっかりできて簡単な会話ができるレベルまで進む。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	天気	否定文 接続詞 -그리고	予習：40分、復習：40分	80
第2回 /	時間	～時～分	予習：40分、復習：40分	80
第3回 /	約束	-아요/-어요/-해요	予習：40分、復習：40分	80
第4回 /	～しましょうか	-(으)니까요?	予習：40分、復習：40分	80
第5回 /	週末	接続詞 - 그래서	予習：40分、復習：40分	80
第6回 /	家族	-있어요/ -없어요	予習：40分、復習：40分	80
第7回 /	私の家族	文章の読む練習	予習：40分、復習：40分	80
第8回 /	韓国語の勉強 小テスト	～どうですか (-어때요?)	予習：40分、復習：40分	80
第9回 /	我が家	-해요? / -해요.	予習：40分、復習：40分	80
第10回 /	交通	交通関連の単語学習	予習：40分、復習：40分	80
第11回 /	～から～まで ～で	～から～まで (-에서 -까지) の表現を学習	予習：40分、復習：40分	80
第12回 /	健康	～大丈夫ですか	予習：40分、復習：40分	80
第13回 /	食べ物	～が好きです	予習：40分、復習：40分	80
第14回 /	キムチ	～したいです	予習：40分、復習：40分	80
第15回 /	まとめと小テスト	全体的なまとめとレベルチェック	予習：40分、復習：40分	80

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	役立つ中国語（入門） Chinese Language (Basic Class)	1単位	選択必修	演習	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	中国語と日本語は言語的に異質的なものである。このような視点から、教科内容の学習を通して、言葉だけではなく、中国の文化的背景を理解することによって、実用面のみならず、教養面にも役立てることを目指す。					
キーワード	発音 文法 会話	学修教育目標	「聞く、話す、読む、書く、訳す」という基本から中国語の特有の発音を身につけ、基本的な文型の学習によって、会話を習得する。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
二回の授業につき、一課の内容を進む。 内容範囲：文法のポイント、文型の応用、会話分に現れた中国の文化的背景など。 ①一回分の新しい内容の量が多いので、学習した内容をよく復習して理解すること。 ②問題点が蓄積しないように授業中に質問がある場合、随時に質問すること。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
なし						
教科書				参考書・リザーブドブック		
書名：学ぶ中国語 楽しく身につく初級トレーニング 著者名：王亜新・劉素英 出版社：朝日出版社				なし		
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践	中国語の基礎力を養成する。				◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践					
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践					
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践					
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	予習、演習などに主体的に取り組むことができる。				○
	② 働きかけ力					
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	分かること、分からないことを明確にして、演習に取り組むことができる。				○
	② 計画力					
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	口頭や文章でパフォーマンスすることができる。				◎
	② 傾聴力	丁寧に他者の発言を聴いて、理解することができる。				○
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	20		10			20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		10	5		2			4	21
	技能に関する評価		15	5		2			4	26
	応用力に関する評価		15	5		4			5	29
	チームワークに関する評価		5	2					2	9
	関心・意欲に関する評価		5	3		2			5	15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
各課のポイントを十分に理解している。 口頭で自分のことが話せる。 きれいな発音ができる。 各項目の達成度が80%以上である。					各課のポイントを十分に理解している。 口頭で自分のことが話せる。 きれいな発音ができる。 各項目の達成度が60%～80%である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	第1回 中国の概況、挨拶言葉 発音①四声 ②単母音 ③子音 ④複合母音	口頭で発音の説明と練習をする	発音と挨拶用語を復習する	中国についての紹介 20 発音練習 50 挨拶用語 20
第2回 ／	第一課 本文の読み方と意味説明 判断の表し方（名詞文の基礎） 自己紹介の学習	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第3回 ／	第一課 名詞文の表現と練習	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらおう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第4回 ／	第二課 本文の読み方と意味説明 存在文と所有文の表現	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第5回 ／	第二課 疑問詞疑問文の表現と練習	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらおう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第6回 ／	筆記テスト①（第一課～第二課） 口頭試験（自己紹介）①	第1課と第2課を復習して、テストを実施する	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第7回 ／	第三課 本文の読み方と意味説明 動詞文の表現 曜日の言い方	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第8回 ／	第三課 前置詞「在」 連動文の表現と練習	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらおう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第9回 ／	第四課 本文の読み方と意味説明 形容詞文の表現 反復疑問文	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第10回 ／	第四課 本文の読み方と意味説明 主述述語文 数量詞の表現と練習	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらおう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第11回 ／	筆記テスト②（第三課～第四課）	第3課と第4課を復習して、テストを実施する	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30

授 業 計 画 表

学修内容（上段）・授業内評価（下段）		授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第12回 ／	第五課 本文の読み方と意味説明 動詞文の肯定の表現 並列の表現 存在場所を表す表現	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
	／			
第13回 ／	第五課 動詞文の否定の表現 活動場所を表す表現 追加の意味を表す表現	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらおう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
	／			
第14回 ／	第六課 本文の読み方と意味説明 所有を表す表現 存在を表す表現	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
	／			
第15回 ／	第六課 予定、計画を表す表現 因果関係を表す表現 練習問題をする	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらおう） 8) 教科書の練習問題をする（全員に書いてもらおう、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
	／			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 外国語リテラシー	知って得する中国語（応用） Chinese Language (Advanced Class)	1単位	選択必修	演習	2年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	中国語と日本語は言語的に異質的なものである。このような視点から、教科内容の学習を通して、言葉だけではなく、中国の文化的背景を理解することによって、実用面のみならず、教養面にも役立てることを目指す。					
キーワード	発音 文法 会話	学修教育目標	「聞く、話す、読む、書く、訳す」という基本から中国語の特有の発音を身につけ、基本的な文型の学習によって、会話を習得する。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
二回の授業につき、一課の内容を進む。 内容範囲：文法のポイント、文型の応用、会話分に現れた中国の文化的背景など。 1) 一回分の新しい内容の量が多いので、学習した内容をよく復習して理解すること。 2) 問題点が蓄積しないように授業中に質問がある場合、随時に質問すること。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
なし						
教科書				参考書・リザーブブック		
書名：学ぶ中国語 楽しく身につく初級トレーニング 著者名：王亜新・劉素英 出版社：朝日出版社				なし		
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践	中国語の基礎力を養成する。				◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践					
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践					
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践					
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	予習、演習などに主体的に取り組むことができる。				○
	② 働きかけ力					
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	分かること、分からないことを明確にして、演習に取り組むことができる。				○
	② 計画力					
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	口頭や文章でパフォーマンスすることができる。				◎
	② 傾聴力	丁寧に他者の発言を聴いて、理解することができる。				○
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	20		10			20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		10	5		2			4	21
	技能に関する評価		15	5		2			4	26
	応用力に関する評価		15	5		4			5	29
	チームワークに関する評価		5	2					2	9
	関心・意欲に関する評価		5	3		2			5	15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
各課のポイントを十分に理解している。 口頭で自分のことが話せる。 きれいな発音ができる。 各項目の達成度が80%以上である。					各課のポイントを十分に理解している。 口頭で自分のことが話せる。 きれいな発音ができる。 各項目の達成度が60%～80%である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 / /	第7課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 前置詞を習う	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第2回 / /	第7課 ④ 連動文の表現を習う ⑤ 練習問題をやる	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をやる（全員に書いてもらい、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第3回 / /	第8課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 二重目的語表現を習う	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第4回 / /	第8課 ④ 前置詞「給」を習う ⑤ 助動詞「要」と疑問詞を習う ⑥ 第8課の練習問題をやる	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をやる（全員に書いてもらい、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第5回 / /	筆記試験① 内容範囲：第7課と第8課 口頭試験①	第7課と第8課と口頭試験内容を練習して、テストを実施する	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第6回 / /	第9課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 状態補語の表現を習う	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第7回 / /	第9課 ④ 比較文「比」と「没有」を習う ⑤ 助動詞「会」を習う ⑥ 練習問題をやる	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をやる（全員に書いてもらい、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第8回 / /	第10課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 進行形の表現を習う	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第9回 / /	第10課 ④ 結果補語を習う ⑤ 助動詞「应该」を習う ⑥ 練習問題をやる	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をやる（全員に書いてもらい、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第10回 / /	筆記試験② 内容範囲：第9課と第10課	第9課と第10課を復習して、テストを実施する	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第11回 /	第11課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 文型などの表現を習う	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第12回 /	第11課 ④ 「是…的」構文を習う ⑤ 練習問題をやる	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう） 8) 教科書の練習問題をやる（全員に書いてもらい、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第13回 /	第12課 ① 本文を読む ② 本文を説明する ③ 変化の「了」を習う	1) 説明しながら、全員で新しい単語を読む 2) 単語シートで書く練習をする 3) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして練習する 4) 本文を黒板に書いて、詳しく説明する 5) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第14回 /	第12課 ④ 副詞の表現を習う ⑤ 「一点儿」と「有点儿」を習う	6) 本文を全員で読んだり、ペアで読んだりして復習する 7) 文法を習う（プリントで作文の練習をする、口頭で文を作ってもらう）	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30
第15回 /	第12課 ⑥練習問題をやる 復習、口頭試験の練習まとめ	8) 教科書の練習問題をやる（全員に書いてもらい、一人一人チェックしながら、疑問難問を解決する） 9) 第11課と第12課と口頭試験内容を復習する	単語と本文を予習復習する	読む練習 30 書く練習 30 説明解釈 30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー	情報の倫理 Ethics of Information	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	<p>情報社会の進展で、経済、文化、教育などあらゆる分野で情報技術を活用することが求められている。とりわけ、パソコンやスマートフォン等の情報機器や情報通信ネットワークの活用は、あらゆる職業で求められ、生活を便利で豊かにする反面、情報を取り扱うにあたっての関連法の理解や、情報の倫理観やセキュリティの意識に基づく適切な行動規範が求められる。この科目では、情報の取扱いに係る法規や倫理性について学ぶとともに、情報社会がもたらす「光」（恩恵）と「影」（問題点）のさまざまな事例を通して、情報倫理や情報セキュリティに関する理解と意識を高めるとともに、適切に情報を活用する資質と能力を養成する。</p>
----------------------------	--

キ ー ワ ー ド	<p>情報社会、個人情報、知的財産権、有害情報、ネット依存、サイバー犯罪、セキュリティ対策</p>	学 修 教 育 目 標	<p>情報社会をよりよく生きるために求められる情報やメディアの特性の理解、個人情報や知的財産（著作物等）の取り扱いや関連法の理解、ビジネス、生活、教育、医療・福祉等における情報の適切な活用と留意点、有益・有害情報の取捨選択、SNS等のインターネットを活用したコミュニケーションにおけるモラルやルールの遵守、サイバー犯罪の被害に遭わないための情報セキュリティ対策など、情報社会が投げかける「光」と「影」に関する知識と意識を高め、適切に情報を取り扱う資質と能力を養成する。</p>
-----------------------	---	----------------------------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

この授業では、情報やメディアの特性の理解、個人情報や知的財産（著作物等）の取り扱いや関連法の理解、ビジネス、生活、教育における情報の適切な活用と留意点、有益・有害情報の取捨選択、SNS等のインターネットを活用したコミュニケーションにおけるモラルやルールの遵守、サイバー犯罪の被害に遭わないための情報セキュリティ対策など、インターネットを利用したサービスの有効性や可能性という「光」の部分と、さまざまなトラブルや犯罪などの「影」の部分について認識を深める。

授業中に講義内容をより深く理解するために、授業前に教科書を読んで概要を理解しておくことをすすめる。また、授業中に演習問題や練習問題を行う。わからないことがあれば、授業内・授業外を問わず質問して解決しておくこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

情報リテラシー科目である「看護情報リテラシー基礎」「看護情報リテラシー応用」の理解につながる。

教 科 書	参考書・リザーブブック
<p>書 名：超スマート社会を生きるための情報のセキュリティと倫理 著者名：佐藤 万寿美、高橋 参吉、他5名 出版社：実教出版</p>	なし

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践		
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践	有益・有害情報の取捨選択、情報の適切な取り扱いと運用、社会規範やネットワークにおけるルールの遵守など情報社会の光と影の部分を理解できる。	◎
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践		
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に学修に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	対象の身体面、心理・社会的側面を踏まえて現状を分析することができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	情報を適正に取り扱い、適切に発信することができる。	○
	② 傾聴力	他者の意見や説明を丁寧に聞いて、理解することができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力	多方面の事実や状況から、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解し最適な行動を実行できる。	○
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	情報や情報機器を適正に取り扱い、情報モラルに関する知識や意識を高め、他者に配慮して行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		20				30	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30		10				15	55
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		10		5				5	20
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10		5				10	25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>インターネットの仕組みとサービスの有効性、利用性という光の部分を充分理解している。個人情報、知的財産権、有害情報、サイバー犯罪、セキュリティ対策などの仕組みを理解している。 各項目の理解度が80%以上である。</p>					<p>インターネットの仕組みとサービスの有効性、利用性という光の部分を理解している。個人情報、知的財産権、有害情報、サイバー犯罪、セキュリティ対策などの基本的な仕組みを理解している。 各項目の理解度が60%～80%である。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス 授業の目標、学習内容、授業方法、評価方法など、「情報の倫理」を学ぶためのガイダンスを受ける。	講義	・ 次回の学修内容の予習	予習 30
	コメントシートを提出	パワーポイント		
第2回 /	ネット社会のモラルとマナー(1) スマートフォンのマナー、ソーシャルメディアの活用、コミュニケーションアプリの活用	講義	・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出	パワーポイント		
第3回 /	ネット社会のモラルとマナー(2) ネット上のコミュニケーション、情報の選択と活用、情報の信ぴょう性	講義	・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出	パワーポイント		
第4回 /	ネット社会のモラルとマナー(3) ネットの活用と依存、ネット依存症	講義	・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出。レポート課題①を提出。	パワーポイント		
第5回 /	ネット社会での生活(1) 位置情報システムの活用、画像の共有と発信、動画の共有と発信、肖像権	講義	・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出	パワーポイント		
第6回 /	ネット社会での生活(2) ネット上の売買、ソーシャルゲーム、迷惑メッセージ	講義	・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出	パワーポイント		
第7回 /	ネット社会での生活(3) キャッシュレス決済、不当請求・オンライン詐欺、ネット上の誹謗中傷、プロバイダ責任制限法	講義	・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出。レポート課題②を提出。	パワーポイント		
第8回 /	個人情報と知的財産(1) 個人情報と情報提供、個人情報の流出、個人情報の保護、個人情報保護法	講義	・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出。	パワーポイント		
第9回 /	個人情報と知的財産(2) 個人データの活用、文章や画像の利用、音楽や映像の利用	講義	・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出	パワーポイント		
第10回 /	個人情報と知的財産(3) 学習と著作権、著作権法	講義	・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出。レポート課題③を提出。	パワーポイント、DVD教材		
第11回 /	情報サービスとセキュリティ(1) 個人認証、クラウドサービス、アプリケーションの利用	講義	・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出	パワーポイント		
第12回 /	情報サービスとセキュリティ(2) コンピュータウイルス、アクセス制御と不正アクセス、フィルタリング、不正アクセス禁止法	講義	・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出。	パワーポイント		
第13回 /	情報サービスとセキュリティ(3) 無線LANと暗号化	講義	・ 学修したテキストの復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出。レポート課題④を提出。	パワーポイント		
第14回 /	デジタル・シティズンシップ	講義	・ 学修した内容の復習 ・ 次回の学修内容の予習	予習 30 復習 30
	コメントシートを提出	パワーポイント		
第15回 /	まとめ 情報倫理の学習を振り返ってまとめ、練習問題で理解を確認する。	講義	・ 学修した内容の復習	復習 30
	コメントシートを提出。	パワーポイント		

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー	看護情報リテラシー基礎 Nursing Information Literacy (Basic Course)	1単位	必修	演習	1年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>病院などの医療機関では、患者のさまざまな情報をコンピュータで管理することにより、事務処理の迅速化と、より良い看護・医療の提供に努めている。本授業では、看護の分野において情報を活用する目的と意義を理解し、看護の実務処理現場に必要な情報リテラシーとよばれる基礎的な情報処理技術を身につけることを目的とする。</p>					
キーワード	情報管理 セキュリティ	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> Windows 環境のもとで、情報モラルとセキュリティーを意識し、WORD を使用して、医療関連情報をまとめた文書作成の技術を習得し、Powerpoint を使用した視覚効果のあるプレゼンテーションの基本的技術を習得する。また、Excel を使用して医療関連情報のデータを 管理、解析する基本的技術を習得する。 特に文書処理技術の向上を目指し、Word3 級程度の資格取得も目標とする。 			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>タブレット、パット操作が主体となる今日、パソコン操作が苦手の学生は、この機会に克服して基本となるアプリケーションを使いこなして、実践的な情報管理能力を習得する。できるだけ自主的にサーティファイ「WORD 文書処理技能試験」などに挑戦することが望まれる。</p> <p>また、タイピングソフト（TYPEQUICK）を利用して正確なタイプ操作の技能を高める努力をすることが大切である。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<p>後期の「看護情報リテラシー応用」を学ぶにあたり、基礎知識の授業科目である。</p> <p>社会人として仕事に必要な基本的なアプリケーション技能として、認定試験のサーティファイ「WORD 文書処理技能試験」合格へ繋がる科目である。</p>						
教科書			参考書・リザーブブック			
<p>書籍：情報リテラシー 入門編 出版社：FOM 出版</p> <p>他、授業内で添付配布資料</p>			<p>書 名：医療・看護系のための情報リテラシー 出版社：東京図書</p> <p>書 名：Word 文書処理技能認定試験 3 級問題集 出版社：サーティファイ</p>			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践					
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践					
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践	ケア提供を正確にできるように情報を管理する力を身に着ける。				○
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践					
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	健康な生活作りを促進するため情報提供する資料作りができる。				◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備をしっかりと行い、積極的に計画をたてて学習能力を深めることができる。				◎
	② 働きかけ力	疑問や確認を自らすすんで質問することができる。				○
	③ 実行力	課題を時間内で仕上げ追加課題も進んで取り組むことができる。資格取得の努力をすることができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分のわからない点を明確にし、解決する努力をする。				○
	② 計画力	学内サイトの授業連絡事項を参考に、課題の仕上げ、受講準備を計画的に行える。				○
	③ 創造力	効率化と正確さを意識することができる。				◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の実力が高まったときは、どれだけ技術力、理解度が高まっているか説明できる。				◎
	② 傾聴力	説明、意見を丁寧に聞き取り、メモを取ることができる。				△
	③ 柔軟性	効率化を意識することにより、いろいろな手法を考える力が高められる。				○
	④ 状況把握力	自分の出席状況、期限内課題提出の有無など自己管理できる。今何をすべきかの理解度高められる。				△
	⑤ 規律性	基本的な、受講ルールに従って周りとの調和を取り、受講態度を快適にコントロールすることができる。				○
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	必要のない私語をひかえて状況を把握し、情報倫理を意識しながら取り組むことができる。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50				30		20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		20				10		5	35
	技能に関する評価		10				10			20
	応用力に関する評価		10				10		5	25
	チームワークに関する評価		5						5	10
	関心・意欲に関する評価		5						5	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>患者のさまざまな情報をコンピュータで管理することにより、事務処理の迅速化とより良い看護・医療の提供に役立てる。看護の分野において情報を活用する目的と意義を理解し、基礎的な情報処理技術を身につけることを目的とする。</p>					<p>医療データを管理できるアプリケーションの基本的技術を習得する。特に文書処理技術の向上を目指し、Word3 級程度の資格取得も目標とする。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、およその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 授業の目的、計画、評価方法などを知 医療・看護分野での情報リテラシーの必要性を理解する。 学内の情報環境、ブラウザ、タイプクイックの説明 課題	・履修に関する説明。 ・授業で利用するTGU操作。 ・タイプクイックの登録	・シラバスで講義内容を把握しておくこと ・タイプクイックの練習	60
第2回 /	Windows の基礎、情報セキュリティーと情報モラル Windows の基礎とアプリケーションソフトの利用。 メール、ファイル管理、情報セキュリティー、情報モラルついて、 タイプクイック。 課題	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題 (以下、毎回、時間とも同様)	60
第3回 /	タイプクイック Word の基礎（1） 画面構成と入力の基本操作 Word の機能を理解し、操作方法を習得する。 課題	講義、演習		
第4回 /	タイプクイック Word の基本（2） 医療データを利用して、わかりやすい文書の構成、表 を活用した文書の作成と印刷 装飾、配置の方法、表の挿入と編集方法を習得し、印刷する。 課題	講義、演習		
第5回 /	タイプクイック Word の応用（3） 医療データを利用して表の構成を学ぶ、グラデーショ ンを利用し描画を描く。 課題	講義、演習		
第6回 /	Word の応用（4） 医療データを利用して表の構成を学ぶ、 文書の中に図形や画像を挿入し、編集する方法を習得する。 課題	講義、演習		
第7回 /	タイプクイック Word 資格模擬演習 課題	講義、演習		
第8回 /	タイプクイック Word 資格模擬演習 課題	講義、演習		
第9回 /	タイプクイック PowerPoint の基礎（1） PowerPoint の基本的な機能を理解する。 課題	講義、演習		
第10回 /	タイプクイック PowerPoint の基礎（2） PowerPoint の応用的な機能を理解する。 課題	講義、演習		
第11回 /	タイプクイック PowerPoint の基礎（3） 課題を利用してプレゼンテーションとしてのデータをまとめる。 課題	講義、演習		
第12回 /	タイプクイック Excel の基礎（1） シート構成、データ管理、表作成機能を理解する。 課題	講義、演習		
第13回 /	タイプクイック Excel の基礎（2） 数式、グラフ機能を理解する。 課題	講義、演習		
第14回 /	タイプクイック WORD 認定試験模擬問題仕上げ 課題	講義、演習		
第15回 /	前期総合課題演習 前期で習得機能を利用 総合課題を作成、実力確認。質疑応答による問題解決を行う。 試験対策	講義、演習		

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー	看護情報リテラシー応用 Nursing Information Literacy (Application Course)	1単位	必修	演習	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>表計算ソフト Excel を使い、データを集計、分析する能力を身につけ、看護活動の場で実際に活用できる能力を育成する。また、病院内ネットワークシステムによる情報の共有化と活用方法、個人情報保護と管理の重要性などを理解する。</p>
--------	--

キーワード	<p>情報管理 セキュリティ</p>	学修教育目標	<p>本授業では、看護業務の中で必要とされる、薬・検査オーダー、看護処置などの患者情報の一覧表を作成し、並び替え、グラフ化、抽出、グループ集計などのデータベース機能の知識と操作方法を習得する。インターネットで公開されている統計データや実験結果を使用して、データの集計、分析方法の実際例を理解する。また、表計算処理技術の向上をめざし、Excel3 級程度の資格取得も目標とする。</p>
-------	------------------------	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>前期で学んだ基礎技能を応用してアプリケーションを使いこなし、実践的な情報管理能力を習得する。できるだけ自主的にサーティファイ「EXCEL 表作成処理技能試験」などに挑戦することが望まれる。 また、正確な情報の伝達の技法を学ぶ努力を期待する。</p>

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>後期の「看護情報リテラシー応用」を学ぶにあたり、前期の基礎知識を利用のもとに应用技能を高める授業科目である。 社会人として仕事に必要な不可欠な基本的なアプリケーション技能として、認定試験のサーティファイ「EXCEL 表作成処理技能試験」合格へ繋がる科目である。</p>

教科書	参考書・リザーブブック
<p>書籍：情報リテラシー 入門編 出版社：FOM 出版</p> <p>他、授業内で添付配布資料</p>	<p>書名：医療・看護系のための情報リテラシー 出版社：東京図書</p> <p>書名：EXCEL 表計算処理技能認定試験 3級問題集 出版社：サーティファイ</p>

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践		
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践	ケア提供を正確にできるように情報を管理する力を身に着ける。	○
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践		
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	健康な生活づくりを促進するため情報提供する資料作りができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備をしっかりと行い、積極的に計画をたてて学習能力を深めることができる。	◎
	② 働きかけ力	疑問や確認を自らすすんで質問することができる。	○
	③ 実行力	課題を時間内で仕上げ追加課題も進んで取り組むことができる。資格取得の努力をすることができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分のわからない点を明確にし、解決する努力をする。	○
	② 計画力	学内サイトの授業連絡事項を参考に、課題の仕上げ、受講準備を計画的に行える。	○
	③ 創造力	効率化と正確さを意識することができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の実力が高まったときは、どれだけ技術力、理解度が高まっているか説明できる。	◎
	② 傾聴力	説明、意見を丁寧に聞き取り、メモを取ることができる。	△
	③ 柔軟性	効率化を意識することにより、いろいろな手法を考える力が高められる。	○
	④ 状況把握力	自分の出席状況、期限内課題提出の有無など自己管理できる。今何をすべきかの理解度高められる。	△
	⑤ 規律性	基本的な、受講ルールに従って周りとの調和を取り、受講態度を快適にコントロールすることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	必要のない私語をひかえて状況を把握し、情報倫理を意識しながら取り組むことができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50				30		20	100
評価 の 指 標	知識に関する評価		20				10		5	35
	技能に関する評価		10				10			20
	応用力に関する評価		10				10		5	25
	チームワークに関する評価		5						5	10
	関心・意欲に関する評価		5						5	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>患者のさまざまな情報をコンピュータで管理することにより、事務処理の迅速化とより良い看護・医療の提供に役立てる。看護の分野において情報を活用する目的と意義を理解し、応用的な情報処理技術を身につけることを目的とする。</p>					<p>医療データを管理できるアプリケーションの応用的技術を習得する。特に表計算処理技術の向上をめざし、Excel3 級程度の資格取得も目標とする。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 授業の目的、計画、受講上の注意、評価方法などを知る。 看護とコンピュータの活用 看護におけるコンピュータ利用の目的と意義を、さまざまな看護支援システムや医療情報ネットワークシステムの例から学ぶ。 課題	講義、演習	・シラバスで講義内容を把握しておくこと	60
第2回 /	基本的なワークシート編集 計算式の入力、計算式の複製、再計算と演算子、行と列の挿入と削除、表示形式・列幅・表示位置・書式の変更、オートフィル機能、表の罫線作成 課題	講義、演習	授業内容の復習と授業時に適宜指示した課題 (以下、毎回、時間とも同様)	60
第3回 /	関数を使った計算方法（1） 合計、平均、最大・最小、数を数える関数、%を含んだ表の作成、小数部表示の調節、小数点を操作する関数、条件判断、ランクづけ、相対指定と絶対指定 課題	講義、演習		
第4回 /	関数を使った計算方法（2） 合計、平均、最大・最小、数を数える関数、%を含んだ表の作成、小数部表示の調節、小数点を操作する関数、条件判断、ランクづけ、相対指定と絶対指定 課題	講義、演習		
第5回 /	Excel（表計算ソフト）統計情報の取り扱い基本 データ分析 度数分布表 基本統計量 正規分布 ワークシートの保存・印刷 課題	講義、演習		
第6回 /	グラフの作成 グラフ化のメリット、グラフの種類、グラフの調節、項目の追加、離れたデータを使ったグラフ 課題	講義、演習		
第7回 /	Excelの便利な機能を使いこす セルの参照機能、ナンバリング、セルの結合、セル内の文字配列 課題	講義、演習		
第8回 /	Excelのデータベース機能 並べ替え（ソート）、抽出（オートフィルタ）、グループ集計 WordとExcel ワークシートへの文書埋込、文書へのワークシート埋込 課題	講義、演習		
第9回 /	Excel 資格模擬演習 課題	講義、演習		
第10回 /	Excel 資格模擬演習 課題	講義、演習		
第11回 /	Excel 資格模擬演習 課題	講義、演習		
第12回 /	総合問題（個人課題）（1） 課題	講義、演習		
第13回 /	データベースソフト、統計分析ソフトの紹介と看護への活用 今後の学習や将来看護の仕事や研究で必要となるソフトの概要を知る。 課題	講義、演習		
第14回 /	後期総合課題演習 後期で習得機能を利用 総合課題を作成、試験前対策として実力確認。質疑応答による問題解決を行う。 課題	講義、演習		
第15回 /	総合学習問題の解説と練習 最終課題	講義、演習		

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 情報リテラシー	わかる統計学 Statistics for Nurse	2単位	必修	講義	2年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>統計の知識は、すべての人にとって必須の知識となっている。 本講義では、推測統計学の重要性を学び、統計学が適用される現実の諸問題に関して、統計的に処理する方法論を教授する。具体的には、まず統計学の概念や論理的側面を全体的に把握し、さらに統計的データ処理の方法を自ら計算することにより統計学の必要性を理解することを目標とする。 そこで、レポートでは、e-Stat（政府統計ポータルサイト）から実データを活用し、データの加工や分析を行い有益な知見を見出す。また、それらの結果を、正確に共有・伝達を行う力を養う。</p>					
キーワード	記述統計 推測統計 確率分布 データ解析	学修教育目標	<p>多方面で利用される統計的な処理の論理的背景を習得でき、特に医療分野におけるデータの実践的処理の方法を習得することができる。 また、今後履修する様々な応用専門科目の理解のための、統計学的素養を持つこともできる。</p>			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>看護分野においても、大量のデータから有効な情報を得るためには統計学が重要な役割を担っている。 本講義では、授業計画表に基づき、統計学の知識を学習します。 事前に各回の講義内容を示すので、予習および復習を行って講義に臨んで下さい。 また、講義中にレポートを課すので、時間内に計画的に進めて提出して下さい。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<p>数学の基礎知識が必要となります。 国家試験に必須な重要科目です。</p>						
教科書				参考書・リザーブドブック		
<p>書名：疫学・保険統計学 第3版 著者名：牧本 清子・尾崎 米厚 他 出版社：医学書院</p>				なし		
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践	集団における現象の観察や統計処理の基礎となる統計学が理解できる。				◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践					
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践					
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践					
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	講義の予習・復習、レポート課題などに主体的に取り組むことができる。				◎
	② 働きかけ力					
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	わかること、わからないことを明確にしてレポート課題に取り組むことができる。				○
	② 計画力	時間内にレポート課題を計画的に進めることができる。				◎
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力					
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	15	35					100
評価 の 指標	知識に関する評価		20	5	10					35
	技能に関する評価		15	5	10					30
	応用力に関する評価		15	5	10					30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				5					5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
看護分野での応用や研究活動に活かせるようになる。					統計に関する基本を理解し統計資料を読み取れる。 データの統計処理ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス、統計学・確率・統計的方法・統計的調査とは 本講義の進め方や受講上の注意事項、統計学の意味、確率の意味 小レポート	講義 デジメ配布 パワーポイント	・ 次回の学修内容の予習 ・ 学修した配布物等の復習	予習 30 復習 30
第2回 /	統計的方法、統計的調査 記述統計と推測統計、サンプリング、データの収集 小レポート	講義 デジメ配布 パワーポイント	・ 次回の学修内容の予習 ・ 学修した配布物等の復習	予習 30 復習 30
第3回 /	データの特徴を図で表す 記述統計と推測統計、サンプリング、データの収集、データの種類の、 測定の水準、データの図示、度数分布、累積分布 小レポート	講義 デジメ配布 パワーポイント	・ 次回の学修内容の予習 ・ 学修した配布物等の復習	予習 30 復習 30
第4回 /	データの特徴を数値で表す 統計的変量、誤差・精度・近似値、平均、ばらつきの尺度、歪度、尖度 小レポート	講義 デジメ配布 パワーポイント	・ 次回の学修内容の予習 ・ 学修した配布物等の復習	予習 30 復習 30
第5回 /	偶然事象と確率 確率とは、事象、排反事象、独立事象、統計的確率 確率変数、期待値、偏差、分散 小レポート	講義 デジメ配布 パワーポイント	・ 次回の学修内容の予習 ・ 学修した配布物等の復習	予習 30 復習 30
第6回 /	データの生みの親－母集団－ 母集団とは、母集団分布、母数とは、確率密度関数、分布関数、母平均 母分散 小レポート	講義 デジメ配布 パワーポイント	・ 次回の学修内容の予習 ・ 学修した配布物等の復習	予習 30 復習 30
第7回 /	母集団と種々の分布 離散分布、二項分布、ポアソン分布、連続分布、正規分布 小レポート	講義 デジメ配布 パワーポイント	・ 次回の学修内容の予習 ・ 学修した配布物等の復習	予習 30 復習 30
第8回 /	正規分布とその応用（1） 正規曲線、正規分布表とその利用法 一般の正規分布、二項分布の正規、近似 小レポート	講義 デジメ配布 パワーポイント	・ 次回の学修内容の予習 ・ 学修した配布物等の復習	予習 30 復習 30
第9回 /	正規分布とその応用（2） 正規曲線、正規分布表とその利用法 一般の正規分布、二項分布の正規、近似 小レポート	講義 デジメ配布 パワーポイント	・ 次回の学修内容の予習 ・ 学修した配布物等の復習	予習 30 復習 30
第10回 /	統計的推測（1） - 標本分布（1） - 母数の推定、点推定、区間推定、不偏推定量、信頼係数 サンプル平均の分布と性質、期待値と分散、区間推定、信頼限界 小レポート	講義 デジメ配布 パワーポイント	・ 次回の学修内容の予習 ・ 学修した配布物等の復習	予習 30 復習 30
第11回 /	統計的推測（2） - 標本分布（2） - 母数の推定、点推定、区間推定、不偏推定量、信頼係数 プル平均の分布と性質、期待値と分散、区間推定、信頼限界 小レポート	講義 デジメ配布 パワーポイント	・ 次回の学修内容の予習 ・ 学修した配布物等の復習	予習 30 復習 30
第12回 /	統計的仮説検定 - 平均値の検定 - 統計的仮説とは、帰無仮説、対立仮説、棄却域、有意性の意味 小レポート	講義 デジメ配布 パワーポイント	・ 次回の学修内容の予習 ・ 学修した配布物等の復習	予習 30 復習 30
第13回 /	独立性の検定 m×n 分割表、四分表、離散分布の母数の推定 小レポート	講義 デジメ配布 パワーポイント	・ 次回の学修内容の予習 ・ 学修した配布物等の復習	予習 30 復習 30
第14回 /	相関分析、ノンパラメトリック検定 統計学の応用範囲、演習 小レポート	講義 デジメ配布 パワーポイント	・ 次回の学修内容の予習 ・ 学修した配布物等の復習	予習 30 復習 30
第15回 /	まとめ（講義時間内試験） 統計学の利用方法についてまとめる 小レポート	講義 デジメ配布 パワーポイント	・ 学修した配布物等の復習	復習 60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本リテラシー科目 身体健康リテラシー	レクリエーションとスポーツ Recreation and Sports	1単位	選 択	実 習	1年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>スポーツ種目を活用しながら行うレクリエーション活動の実践を通して、スポーツ・レクリエーション活動が健康におよぼすポジティブな影響を体感し、今後の自分自身の体力づくりや心身のメンテナンス、さらに看護現場でのサポートに援用できることを理解する。また、看護場面における様々な対象者を想定し、対象者の特徴や目的に合わせたスポーツ・レクリエーションを考えて実施案を作成し、実践する。</p>					
キーワード	スポーツ レクリエーション 健康づくり	学修教育目標	<p>スポーツ・レクリエーション活動を通じて、身体活動の重要性など看護に関連する知識・技術を習得することができる。 将来、患者の援助をする者として、周囲の仲間と適切な人間関係を形成し、課題に取り組むことができる。</p>			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>基本支援の技術や方法を、自らの意思で自ら学び、積極的に取り組むことができる。 「よりよく生きる」を目指す。そのための支援、様々な素材、指導活動方法を知ることができる。 「楽しみ・夢づくり・幸せづくり・元気づくり」への共感。</p> <p>※ 体育館シューズが必要です。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<p>目的・対象・段階にあわせたプログラム例の把握と理解。 「レクリエーションとスポーツ」の展開方法・組み立ての理解。</p>						
教 科 書				参考書・リザーブブック		
なし				<p>書 名：レクリエーション支援の基礎 著者名：(公財) 日本レクリエーション協会 出版社：(公財) 日本レクリエーション協会</p>		
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標 (※1)				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践	基礎的な支援知識、方法を身につける。				
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	基礎的な技術の学修と展開方法・組み立てを身につける。				
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践	様々なレクリエーションの知識を身につける。				
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	運動が疾患の予防に重要な役割を担う事ことを理解する。				
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	楽しみがヘルス・プロモーションに重要であることを理解する。				
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標 (※2)				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で学修を進め、自信をもって何事にも取り組むことができる。				
	② 働きかけ力	協力者に声掛け、役割分担を決め、効果的に協働し取り組むことができる。				
	③ 実行力	何事にも、失敗を恐れず体験、喜びを感じ自信をもって確実に行動することができる。				
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	目的や問題点を明らかにし、的確に解決策を見つけ行動することができる。				
	② 計画力	個々の支援プロセスをとらえ、自発的に、実践的に計画することができる。				
	③ 創造力	多様な知識・技能を用いて、具体的にわかりやすく伝え、創意工夫することができる。				
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	事例・模範ゲームを用いて、具体的に的確にわかりやすく伝えることができる。				
	② 傾聴力	相手の話をよく聴き、正確に理解することができる。				
	③ 柔軟性	他人の考えに共感を持ち、自分の役割が何かを見極め、自信をもって取り組むことができる。				
	④ 状況把握力	自分にできること、他人が出来ることとは何か、すぐ判断し行動することができる。				
	⑤ 規律性	挨拶や礼儀、ルールや約束・マナーを理解、模範となる行動をとることができる。				
	⑥ ストレスコントロール力	原因を見つけ、不安を取り除き、自力で対処方法を考え的確に取り組むことができる。				
4. 倫理観	① 倫理性	相手や周囲の立場に立って、自覚と責任をもって行動することができる。				

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			30		20	50				100
評価 の 指標	知識に関する評価		20		5					25
	技能に関する評価					10				10
	応用力に関する評価		10		5	10				25
	チームワークに関する評価				5	10				15
	関心・意欲に関する評価				5	20				25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>各回の授業内で講義・実習を実施。自考力、支援の技術を高め、磨き続けること。 コミュニケーション・ワーク、アイスブレイキングの理解と把握、普及と推進。 支援活動の安全管理、心身の健康、体調の自己管理のプレゼン実施。</p>					<p>レクリエーションの支援の方法、組み立ての理解と把握。 「仲間・健康・笑顔・元気づくり」への道標の理解度。 種目の概要と特性、学修プリント、授業内・授業外を問わず確認し、整理保存と復習を すること。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション ①レクリエーション、スポーツ、健康 ②看護との関連	講義 レポート作成	レクリエーションとは	90
第2回 /	レクリエーションとスポーツ ①アクティビティ ②ドッチビー	実技 レポート作成	概要と特性、ルール把握 有効な人間関係の構築	90
第3回 /	レクリエーションとスポーツ ①アクティビティ ②ドッチボール	実技 レポート作成	概要と特性、ルール把握 有効な人間関係の構築	90
第4回 /	レクリエーションとスポーツ ①アクティビティ ②フライングディスク 1	実技 レポート作成	概要と特性、ルール把握 有効な人間関係の構築	90
第5回 /	レクリエーションとスポーツ ①アクティビティ ②フライングディスク 2	実技 レポート作成	概要と特性、ルール把握 有効な人間関係の構築	90
第6回 /	レクリエーションとスポーツ ①アクティビティ ②バドミントン 1	実技 レポート作成	概要と特性、ルール把握 有効な人間関係の構築	90
第7回 /	レクリエーションとスポーツ ①アクティビティ ②バドミントン 2	実技 レポート作成	概要と特性、ルール把握 有効な人間関係の構築	90
第8回 /	レクリエーションとスポーツ ①アクティビティ ②インディアカ	実技 レポート作成	概要と特性、ルール把握 有効な人間関係の構築	90
第9回 /	指導案の作成方法	講義	導入・展開・まとめの記入方法 有効な人間関係の構築	90
第10回 /	指導案の作成	講義	グループに分かれて指導案を作成 有効な人間関係の構築	90
第11回 /	指導案に沿った指導体験 1	実技 レポート作成	レクリエーションの実践 有効な人間関係の構築	90
第12回 /	指導案に沿った指導体験 2	実技 レポート作成	レクリエーションの実践 有効な人間関係の構築	90
第13回 /	指導案に沿った指導体験 3	実技 レポート作成	レクリエーションの実践 有効な人間関係の構築	90
第14回 /	指導案に沿った指導体験 4	実技 レポート作成 講義	レクリエーションの実践 有効な人間関係の構築 まとめ	90
第15回 /	指導案に沿った指導体験 4	実技 レポート作成 講義	レクリエーションの実践 有効な人間関係の構築 まとめ	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目	表現入門 Introduction to Japanese Expression	2単位	選 択	講 義	1年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	国際化、情報化時代における国語学習である。学生が日本文化全体を含めた日本語に対する基礎的な知識を理解し、社会人として恥ずかしくない日本語常識を身につける。高等学校において既に学習しているはずの文字や文章にかかわる項目以外に、口語（音声）表現における敬語等表現などの基本的な知識をも整理復習して、さらにその活用方法を学ぶ。その他、就職活動に不可欠な履歴書・エントリーシートなども扱い、自己を正確に分析する能力をも身につける。					
キーワード	国語常識	学修教育目標	学生が日本語に対する基礎的な知識を理解し、社会人として恥ずかしくない日本語常識を身につけることができる。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
教科書に沿って逐次問題演習をしていくので、必ず教科書を持参して授業に臨むこと。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
特に無し。						
教科書				参考書・リザーブブック		
書 名：キャリアアップ国語表現法 24 訂版 著者名：丸山 顕徳、その他 出版社：嵯峨野書院				なし		
No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践					
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践					
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践					
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	発信力をつけたり、問題解決能力など社会に必要な基本的な力を養う。				△
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	日本語に対する基礎的な知識を理解し、社会人として恥ずかしくない日本語常識を身につける。				△
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。				◎
	② 働きかけ力	協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。				○
	③ 実行力	実際に解答を板書して他者の同意を求める。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探している。				◎
	② 計画力	課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。				△
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。				△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。				○
	② 傾聴力	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。				◎
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。				○
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。				◎
	⑤ 規律性	社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。				◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。				○
4. 倫理観	① 倫理性	相手の意思決定や権利を守りながら行動することができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			59			35			6	100
評価 の 指 標	知識に関する評価		40			30				70
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		9							9
	チームワークに関する評価								6	6
	関心・意欲に関する評価		10			5				15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
国語常識として必要な殆どすべての知識を身につけることができた。					国語常識としてよく使われる知識については修得できた。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	授業ガイダンス 就職試験（国語常識）との関係	講義・レジュメはパワーポイント iPad等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第2回 /	文字表現1 同音異義語	講義・レジュメはパワーポイント iPad等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第3回 /	文字表現2 同訓異義語	講義・レジュメはパワーポイント iPad等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第4回 /	文字表現3 音訓と熟語 文字表現4 四字熟語	講義・レジュメはパワーポイント iPad等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第5回 /	文章作成1 レトリック 文章作成2 慣用表現の誤用	講義・レジュメはパワーポイント iPad等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第6回 /	文章作成3 文のしくみ	講義・レジュメはパワーポイント iPad等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第7回 /	文章実践1 縦書き原稿用紙の使い方 横書き原稿用紙の使い方	講義・レジュメはパワーポイント iPad等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第8回 /	文章実践2 手紙とハガキ①	講義・レジュメはパワーポイント iPad等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第9回 /	文章実践3 手紙とハガキ②	講義・レジュメはパワーポイント iPad等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第10回 /	文章実践4 実際に書く（ハガキ等）	講義・レジュメはパワーポイント iPad等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第11回 /	口語表現1 待遇表現①	講義・レジュメはパワーポイント iPad等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第12回 /	口語表現2 待遇表現②（婉曲表現）	講義・レジュメはパワーポイント iPad等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第13回 /	口語表現3 接客・電話・SNS	講義・レジュメはパワーポイント iPad等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第14回 /	就職作戦1 履歴書とエントリーシート	講義・レジュメはパワーポイント iPad等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習 ・学修した教科書やプリント教材の予習	予習 30 復習 30
	問題演習			
第15回 /	就職作戦2 面接の答え方のポイント	講義・レジュメはパワーポイント iPad等使用・問題演習	・学修した教科書やプリント教材の復習	予習 30
	問題演習			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目	倫理学 Ethics (Introduction to Humanity)	1単位	選 択	講 義	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	（人倫思想概論） 倫理学は、道徳の本質、人間行為の善悪の標準、人間関係の正しいあり方などについて研究する学問である。それは人生観・世界観にかかわる内容をもつ。ゆえに、ここで西洋の考え方、東洋の考え方、日本の考え方、それに現代の思想を主な研究領域として先哲の考え方についてその時代的背景との結びつきのなかで人間性の本質を認識し、すぐれた先人の人生観・世界観について考え、さらに現代社会における人間関係について理解することを通じて「人間いかに生きるべきか」ということを考える。	
	キーワード 道徳の本質 人間行為の善悪の標準 人間関係の正しいあり方 徳育教育 規範倫理学、応用倫理学 人生観・世界観	学修教育目標 すぐれた先人の人生観・世界観について考え、現代社会における人間関係について理解することを通じて、「人間いかに生きるべきか」ということを考えることができる。倫理学の知識が日常生活で、どのように役立つのか、またどのように実践できるのかが徳育教育の要になる。

授業科目の概要及び学修上の助言

本講座は、現代社会における「人間の自己疎外」の進行するなかで人は「どのように現代社会に生きるべきかを自主的に考えていこうとする意欲を高める」ことが最も必要であり、しかも道徳的判断力とその基盤をなす倫理的精神が人生において最も高貴なものであることを先哲の人生観・世界観について学修することによって、自らの人生についての考え方をつくりあげる土台とする。学修に際しては、思想の歴史的変遷や特徴、思想家の生涯などを調べるために参考書、事典、伝記、歴史年表などの資料を参考にするとよい。

- ・講義形式：パワーポイント、プリントを用いて内容の説明を行い、それぞれの実例を各自考えながら進めていく。
- ・毎時間授業で、倫理的な実例を挙げ、個人およびグループで考え討論していく。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

特になし。

教科書	参考書・リザーブブック
書 名：フシギなくらい見えてくる！ 本当にわかる倫理学 著者名：田上孝一 出版社：日本実業出版社	書 名：学びなおすと倫理は面白い 著者名：村中和之 出版社：ベレ出版 書 名：ふだんづかひの倫理学 著者名：平尾昌宏 出版社：晶文社 書 名：理系の学生と学ぶ倫理 著者名：上杉敬子 出版社：晃洋書房

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする倫理学実践		
②	あらゆる年代の人々に対する倫理学実践	「人間いかに生きるべきか」ということを考えながら人間力を高めていく。	△
③	多様な場で、継続的な倫理学の知識を提供、実践できる	倫理学の知識を役立て、実践していき、倫理規範に具体性をもたせることが徳育教育につながる。	○
④	環境に対する倫理規範の実践	人間中心の考え方から人間を含む自然全体を価値の基本単位とみなす新しい倫理感を達成していく。	○
⑤	倫理規範の実践を通して行う徳育教育	実際の日常生活でどう実践できるかという点を重視し、倫理規範に具体性をもたせることが徳育教育の要になる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。	◎
	② 働きかけ力	協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。	◎
	③ 実行力	目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。	◎
	② 計画力	課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。	◎
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。	◎
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。	◎
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。	◎
	⑤ 規律性	社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		30	20				100
評価 の 指標	知識に関する評価		20		20	8				48
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		10		4	4				18
	チームワークに関する評価		10		3	4				17
	関心・意欲に関する評価		10		3	4				17
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
現代社会における人間関係について理解することを通じて、「人間いかに生きるべきか」、「人命の尊重と人間性をいかに高めるか」ということを考えることができる。					現代社会における人間関係について理解することを通じて、「人間いかに生きるべきか」、「人命の尊重と人間性をいかに高めるか」ということを考えることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス ●倫理学の基礎知識 ① 倫理の基礎 ② 倫理学総論 ③ 倫理学の分類	講義	授業内容の復習	120
第2回 /	●倫理とは何か ① 倫理学とは哲学なのか？ ② 倫理は物事を見定める「ものさし」となる。 レポート課題	講義	授業内容の復習	120
第3回 /	●正義が絶対に正しいことはあるのか？ 様々な人がいるなかで倫理をどう考えるべきか？	講義	授業内容の復習	120
第4回 /	●ソクラテス(無知の知)、プラトン(アイデア、エロス) アリストテレス(メソテース：中庸) コミュニタリアニズム、リベタリアニズム	講義	授業内容の復習	120
第5回 /	●倫理学と人生 ① 倫理は一生つきまとう。	講義	授業内容の復習	120
第6回 /	●学習課題に対する発表・討論	レポート課題 講義、討論	授業内容の復習	120
第7回 /	●人間と環境 ヒューマニズム(人間主義)とは何か？ 「自然」を中心とした倫理学とは？	講義	授業内容の復習	120
第8回 /	●倫理と社会 倫理を通じて社会のルールを考えよう。 ●まとめ 倫理学の基礎知識等をまとめる。	講義	授業内容の復習	120

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目	暮らしの中の憲法 Constitution in Daily Life	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>本科目は、憲法の規定する人権と統治機構の基本事項を理解した上で、憲法の歴史や憲法の制度の趣旨・目的・機能に関する諸々の学説を比較検討することを通して、様々な現実の憲法問題に対して、一定の判断を下せるような法的思考力を養うことを目的とする。</p>					
キーワード	最高法規 基本的人権 国民主権と天皇象徴制 平和主義・戦争放棄 統治機構・地方自治	学修教育目標	<p>本科目は教員による講義を中心とし、適宜、受講生との質疑・応答などの討論を盛り込むこととする。さらに、レポートの提出や授業での討論を通じて、受講生が憲法の考え方を応用・実践できるような思考様式を習得する。</p> <p>また、この講義では憲法とは何かを考えながら、暮らしの中にある規範としての憲法の基本原理についての理解と基礎知識の獲得を目標に、憲法がかかえる今日の諸課題がどのようなものが存在するのかも国際・国内を越えて考えることができる。</p>			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>この講義では憲法とは何かを考え、暮らしの中にある規範としての憲法の基本原理について理解することができる。また日本国憲法の条文に深く刻まれた歴史に思いをはせながら、現在の諸問題にも一層の関心を持つことができる。また、講義ではできる限り新しい素材を吟味し現実に即したテーマを提示します。そのことで、憲法が個々の問題として主体的に身に付き考えることができます。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<p>実質的な講義が始まる前に、できる限り憲法前文を読んでおくこと。憲法条文についてはIT等を活用して自ら資料収集すること。講義の前には関連する条文を読んでおくこと、また常に現代の社会に目を向けるため、新聞やテレビ等の時事にも興味と関心を持つように心がけましょう。</p>						
教科書			参考書・リザーブドブック			
授業毎に資料を配布する。			講義の際に必要な応じて紹介する。			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践	法に基づく基本的人権を知る。				◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	福祉国家理念に基づく制約を知る。				○
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践					
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践					
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備、課題、演習、試験などに主体的に取り組むことができる。				○
	② 働きかけ力					
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	最高法規を理解し、社会の諸問題に関心をもち様々な課題や試験に取り組むことができる。				◎
	② 計画力					
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力					
	③ 柔軟性	自分のルールややり方に固執せず、相手の意見やアドバイスを受け入れることができる。				○
	④ 状況把握力	法治国家の一員としての責任ある行動がとれるよう人格形成ができる。				○
	⑤ 規律性					
4. 倫理観	⑥ ストレスコントロール力					
	① 倫理性	人権に沿った社会人としての自覚が持てる。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			59						41	100
評価の 指標	知識に関する評価		20						20	40
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		20							20
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		19						21	40
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>この講義を通じて、日本国憲法を知り、また日本国憲法が制定された背景を理解し、憲法の基礎知識や法的なものの考え方も身につけてほしいというのが本講義の目的です。また平和主義・裁判員制度・地方自治なども最新時事についての素養も含めてしっかりと理解していることが重要である。 各項目の理解度が80%であること。</p>					<p>この講義を通じて、日本国憲法を知り、また日本国憲法が制定された背景を理解し、憲法の基礎知識や法的なものの考え方も身につけてほしいというのが本講義の目的です。また平和主義・裁判員制度・地方自治なども最新時事についての素養も含めてしっかりと理解していることが重要である。 各項目の理解度が60%～80%であること。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	憲法を学ぶ ・憲法の意義、学び方 ・成績評価方法等	講義形式	憲法について予習すること	30
第2回 /	国民主権と天皇象徴制 ・主権とは何か。 ・日本国憲法における象徴の意味	講義形式	国民主権の意義と天皇制についての予習すること	30
第3回 /	国際協調主義 ・周辺諸国との領土問題 ・集団的自衛権	講義形式	国際協調主義について予習すること	30
第4回 /	平和と憲法 ・憲法9条の平和主義 ・国際協調主義・・・ウクライナ侵攻など時事	講義形式	平和主義について予習すること	30
第5回 /	憲法改正問題 ・憲法9条を中心とする憲法改正論議	講義形式	憲法改正問題について予習すること	30
第6回 /	基本的人権の尊重 ・基本的人権に関する基本原則と分類 ・世界情勢からみた日本の基本的人権	講義形式	基本的人権の意味・意義について予習すること	30
第7回 /	政治と憲法 ・政治のあり方（三権分立・議院内閣制等・国会） ・選挙制度（改正選挙法）	講義形式	三権分立・議院内閣制・選挙制度について予習すること	30
第8回 /	税金と憲法 ・納税の義務と租税法主義	講義形式	納税の義務について予習すること	30
第9回 /	社会保障と憲法 ・生存権的基本権（生活保護など）	講義形式	社会保障について予習すること	30
第10回 /	報道と憲法 ・表現の自由・知る権利・報道の自由	講義形式	表現の自由・知る権利・報道の自由について予習すること	30
第11回 /	新しい人権・・・プライバシーと憲法 ・個人のプライバシー権と個人情報保護法	講義形式	新しい人権・プライバシー権について予習すること	30
第12回 /	刑事訴訟と憲法 ・奴隷的拘束からの自由と刑事被告人の権利	講義形式	刑事訴訟について予習すること	30
第13回 /	裁判所と憲法 ・法令審査権と三審制 ・裁判員制度	講義形式	裁判所について予習すること	30
第14回 /	地方自治法と憲法 ・地方自治制度と地方分権	講義形式	地方自治について予習すること	30
第15回 /	まとめ(1) (第1回からの内容のまとめを行う)	講義形式	これまでの授業の内容について復習すること	30

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目	メンタリング論（自律型人材育成論） Mentoring	2単位	選 択	講 義	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	メンタリングとは人生経験の豊かな人々が、支援を必要としている人々に対して行う支援である。人生のある場面においては教え手となり、またある場面には助けてとなり、また他の場面では心の支え手となって、継続して行う支援活動全体をいうが、看護師としての感性の成長をめざす。
--------	--

キーワード	メンター、メンティー、コーチング	学修教育目標	日本の組織（学校、自治体、病院・・・）でも、最近コーチングがブームになっているが、これだけでは十分な成果が得られず、福祉医療の観点からメンタリングの講義を進めるが、看護師としての精神的に自立でき有効な患者サービスができること。
-------	------------------	--------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

将来看護師になった時に、患者さんに対して如何にして精神的なサポートが出来るかが極めて大事である。単に知識を暗記するだけでなく、メンタリングの精神を理解すること。
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

コーチングに関する知識

教科書	参考書・リザーブブック
なし	書 名：ビジネスコーチング入門 著者名：石川 洋・本田 勝嗣 出版社：日本能率協会マネジメントセンター

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践	家族内でもメンタリングを行えるか。	○
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	年上の人に対してメンターとメンティーの関係を築くこと。	○
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	看護師になったときに積極的に患者さんにメンタリングができること。	◎
	② 働きかけ力	グループワークで友人をリードする。	○
	③ 実行力	あいさつを毎回実行する。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	患者さんの精神的な悩みを感知できること。	◎
	② 計画力	課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。	△
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。	△
	② 傾聴力	困った人を助ける。	○
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。	△
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。	△
	⑤ 規律性	社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。	△
	⑥ ストレスコントロール力	15回休まずに出席する。	○
4. 倫理観	① 倫理性	看護師としての規律を守る。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			58			42				100
評価 の 指標	知識に関する評価		30			15				45
	技能に関する評価					7				7
	応用力に関する評価		10							10
	チームワークに関する評価					10				10
	関心・意欲に関する評価		18			10				28
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>将来看護師として、患者さんに理想的なメンタリングが実施できること。</p>					<p>将来看護師として、患者さんに標準的なメンタリングが実施できること。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス	講義・グループワーク・発表	予習：メンタリングについて、復習：演習の課題でまとめたこと	予習：30 復習：30
	演習参加態度			
第2回 /	5つの人間力とメンタリング	講義・グループワーク・発表	予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演習参加態度			
第3回 /	メンターとは	講義・グループワーク・発表	予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演習参加態度			
第4回 /	メンタリングの基本3形態	講義・グループワーク・発表	予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演習参加態度			
第5回 /	メンタリング・プログラム	講義・グループワーク・発表	予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演習参加態度			
第6回 /	キャリアプラン	講義・グループワーク・発表	予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演習参加態度			
第7回 /	これから問われる人間力	講義・グループワーク・発表	予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
第8回 /	福祉とメンタリング (1)	講義・グループワーク・発表	予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演習参加態度			
第9回 /	福祉とメンタリング (2)	講義・グループワーク・発表	予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演習参加態度			
第10回 /	コーチングとは	講義・グループワーク・発表	予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演習参加態度			
第11回 /	優秀な人材を育てるコーチング	講義・グループワーク・発表	予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演習参加態度			
第12回 /	コーチングの基本スキル	講義・グループワーク・発表	予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演習参加態度			
第13回 /	コーチング実践スキル	講義・グループワーク・発表	予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演習参加態度			
第14回 /	優れたコーチング	講義・グループワーク・発表	予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演習参加態度			
第15回 /	患者を考えたコーチング	講義・グループワーク・発表	予習：前回の演習課題 復習：今回の演習課題	予習：30 復習：30
	演習参加態度			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目	茶道と心 Tea Ceremony and Heart	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	(1) 裏千家茶道の点前を実習することにより、礼儀作法を習得します。人に対する思いやりや何事にも感謝する気持ちを身につけ、また会得した美しい所作や言葉遣いなどは、仕事や日常生活に直接役立っていきます。 (2) 日本の風土に培われた芸術・宗教・哲学・社交を含む総合的な伝統文化である茶道の歴史や精神を学び、海外における日本文化の役割を再認識します。					
	キーワード	伝統文化 茶道 礼儀作法 思いやり 感謝の心	学修教育目標	「初級」の資格の許状を申請できる。		
授業科目の概要及び学修上の助言						
日本の伝統文化である茶道を基礎から学び、必要な知識や技能の修得を目指す。日常生活に欠かせない礼儀作法や協調性、そして生活のルールやマナーを身につける実践の場である。授業で身につけた作法を実生活の中で生かしてほしい。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
学生生活・日々の生活を通して、思いやりや感謝の心を忘れないでほしい。						
教 科 書				参考書・リザーブドブック		
なし				書 名：裏千家 茶道 著者名：学校茶道教本編集委員会 出版社：今日庵		
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標 (※1)				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践	相手に対する思いやりの心や協調性を身につけることができる。				◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	日常生活でのルールやマナーを理解できる。				◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践	常に感謝の心を持ち、物に動じない精神力を育むことができる。				◎
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践					
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標 (※2)				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	知識や能力を向上させるため、自らの意思で積極的に学修を進めることができる。				○
	② 働きかけ力	患者の気持ちを思いやることができる。				◎
	③ 実行力	患者のことを理解し、よりよい行動ができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	患者の状態を正確に理解し、明らかにできる。				◎
	② 計画力	課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。				○
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。				○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。				○
	② 傾聴力	相手の気持ちや助言を最後までしっかり聞くことができる。				◎
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。				○
	④ 状況把握力	自分のおかれている立場を把握し行動できる。				◎
	⑤ 規律性	社会人として必要な礼儀作法やマナーを身につけることができる。				◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。				○
4. 倫理観	① 倫理性	他人に対する尊敬の気持ちを常に持つことができる。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価									
指標と評価割合		試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合		50	5	20	20			5	100
評価 の 指標	知識に関する評価	10	1	10				1	22
	技能に関する評価	10	1		10			1	22
	応用力に関する評価	10	1					1	12
	チームワークに関する評価	10	1					1	12
	関心・意欲に関する評価	10	1	10	10			1	32
具体的な達成の目安									
理想的な達成レベルの目安				標準的な達成レベルの目安					
茶道の基本精神「和敬清寂」を十分理解できる。 「盆略点前」を通しておもてなしの心を十分表現できる。				茶道の基本精神「和敬清寂」をほぼ理解できる。 「盆略点前」を通しておもてなしの心をほぼ表現できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	茶道と伝統文化について総論 ①学生への注意	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第2回 /	客の作法について（茶・菓子）帛紗の説明 ①おじぎ ②立居振舞	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第3回 /	基本的な茶道具の説明 ①帛紗の扱い方 ②呈茶	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第4回 /	茶道の意義 ー茶道と日常生活ー ①棗・茶杓の清め方 ②呈茶	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第5回 /	茶の精神 ー和敬清寂・利休七則ー ①茶筌・茶巾・茶碗の扱い方 ②呈茶	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第6回 /	ビデオ鑑賞 「茶の湯」「お茶で豊かな心を」	講義	日常生活での学修内容の実践	20
第7回 /	茶の歴史 ー茶の伝来から鎌倉時代ー ①割稽古総まとめ ②呈茶 小テスト	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第8回 /	レポート課題出題 茶の歴史 ー足利時代ー ①盆略点前 (1)	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第9回 /	茶の歴史 ー利休と安土桃山時代ー ①盆略点前 (2)	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第10回 /	レポート提出 ーレポート課題の解説ー 茶道の成立 ①盆略点前 (3)	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第11回 /	現代の茶道 ①盆略点前 (4)	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第12回 /	茶と禅 ①盆略点前 (5)	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第13回 /	茶と季節観 ①盆略点前の総まとめ	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第14回 /	総まとめ ー茶道と伝統文化ー ①茶会形式 ②盆略点前のまとめ	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第15回 /	①実技試験（盆略点前）	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目	人間の心 Introduction to Psychology	2単位	必修	講義	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	人間の心においては、まず心理学の全体像をつかむことを目的とする。心理学はこころの学問であるが、心理学を学ぶということは人間そのものについての多角的理解を深めることでもある。心の発達、感覚や知覚、脳の働きや心と身体との関連、さらにパーソナリティや深層心理まで、枚挙にいとまがないほど心理学の領域は広範囲にわたっている。人間の心は、看護師・保健師・養護教諭を目指す学生の基本教養科目となるものである。	
	心理学 心と身体 自己理解・他者理解	学修教育目標 ・人間の心と身体がいかに密接に関連しているかを含めて、人間の心理的側面に関する理解を深めることができる。 ・よりよい看護を実現するために、看護の医療現場においても、心理学の基礎知識は不可欠である。本科目の学びをとおして、自己理解・他者（患者）理解・洞察力を深め、看護の仕事に活用できる知見を身につけることができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

心理学の基礎的な理論・知識を学修し、心と身体の結びつきについて考える。
配布資料に従い、主として講義形式でスライドを用いて授業を進める。
配布資料はあくまで要点のみ記載しているものなので、講義内容について重要だと感じた部分は必ず各自ノートを取ること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

心理学領域の他科目を理解するための基礎になる。

教科書

参考書・リザーブブック

なし	書名：はじめて出会う心理学 第3版 著者名：長谷川 寿一・東條 正城・大島 尚・丹野 義彦・廣中 直行 出版社：有斐閣アルマ
----	--

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践		
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	あらゆる年代の人の心を理解することができる。	◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	不健康とは何かを理解することができる。	○
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	心と身体の密接な結びつきを理解して予防に役立てることができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	進んで学習を深めることができる。	△
	② 働きかけ力	他者から助言を引き出すことができる。	△
	③ 実行力	各自目標を設定し実行することができる。	△
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	わかることわからないことを明確にして課題に取り組むことができる。	△
	② 計画力	課題の解決に向けて具体的な方法を考えることができる。	△
	③ 創造力	知識を生かし看護の具体的な場面での利用方法を考えることができる。	△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を論理的に整理し伝えることができる。	△
	② 傾聴力	他者の意見や説明を丁寧に聴き理解することができる。	△
	③ 柔軟性	自らの考えにとらわれず相手の意見を聞くことができる。	△
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解し自分の果たすべき役割を把握できる。	△
	⑤ 規律性	マナーやルールの必要性を理解し守ることができる。	△
	⑥ ストレスコントロール力	強いストレス状況を作らないような人間関係の維持や適切な対処を行うことができる。	△
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立ち集団内の適切な行動をとることができる。	△

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50						50	100
評価 の 指標	知識に関する評価		50						15	65
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								15	15
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								20	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>人の心を理解するための基礎的な理論や知識が身についている。 基礎的な理論や知識をさらに深く理解することで主体的に活用できる。 どのように活用するかを他者に論理的に説明することができる。</p>					<p>人の心を理解するための基礎的な理論や知識が身についている。 基礎的な理論や知識をさらに深く理解することで主体的に活用できる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 人間の心（心理学）を学ぶにあたって	・講義	・今回の授業の復習 ・今回の授業内容を将来どのような看護場面に活かすことができるか考えておく（次回の授業時にコメントシート記入）	30
第2回 /	心理学とは 心理学の領域、心理学の研究手法 ・コメントシート	・講義 ・コメントシート記入	・今回の授業の復習 ・今回の授業内容を将来どのような看護場面に活かすことができるか考えておく（次回の授業時にコメントシート記入）	60
第3回 /	感覚と知覚 感覚の性質、形・奥行き・動きの知覚、知覚の恒常性 ・コメントシート	・講義 ・コメントシート記入	・今回の授業の復習 ・今回の授業内容を将来どのような看護場面に活かすことができるか考えておく（次回の授業時にコメントシート記入）	60
第4回 /	記憶 記憶の過程、感覚記憶、記憶の種類、知識とスキーマ ・コメントシート	・講義 ・コメントシート記入	・今回の授業の復習 ・今回の授業内容を将来どのような看護場面に活かすことができるか考えておく（次回の授業時にコメントシート記入）	60
第5回 /	学習 学習とは何か、古典的条件づけ・オペラント条件づけ ・コメントシート	・講義 ・コメントシート記入	・今回の授業の復習 ・今回の授業内容を将来どのような看護場面に活かすことができるか考えておく（次回の授業時にコメントシート記入）	60
第6回 /	こころの発達（1） 乳幼児期の心理、発達障害 ・コメントシート	・講義 ・コメントシート記入	・今回の授業の復習 ・今回の授業内容を将来どのような看護場面に活かすことができるか考えておく（次回の授業時にコメントシート記入）	60
第7回 /	こころの発達（2） エリクソンの発達段階説、高齢者の心理、認知症 ・コメントシート	・講義 ・コメントシート記入	・今回の授業の復習 ・今回の授業内容を将来どのような看護場面に活かすことができるか考えておく（次回の授業時にコメントシート記入）	60
第8回 /	動機づけと情動 動機づけとは、情動とは ・コメントシート	・講義 ・コメントシート記入	・今回の授業の復習 ・今回の授業内容を将来どのような看護場面に活かすことができるか考えておく（次回の授業時にコメントシート記入）	60
第9回 /	パーソナリティと知能 パーソナリティとは、性格検査、知能の定義、知能検査 ・コメントシート	・講義 ・コメントシート記入	・今回の授業の復習 ・今回の授業内容を将来どのような看護場面に活かすことができるか考えておく（次回の授業時にコメントシート記入）	60
第10回 /	社会のなかの人 他者による影響と他者の認知、協調と信頼 ・コメントシート	・講義 ・コメントシート記入	・今回の授業の復習 ・今回の授業内容を将来どのような看護場面に活かすことができるか考えておく（次回の授業時にコメントシート記入）	60
第11回 /	ストレスと心の危機 ストレス、心理病理はなぜ起こるか ・コメントシート	・講義 ・コメントシート記入	・今回の授業の復習 ・今回の授業内容を将来どのような看護場面に活かすことができるか考えておく（次回の授業時にコメントシート記入）	60
第12回 /	脳機能障害と心の働き（1） 失行・失認等、高次脳機能障害の症例に学ぶ ・コメントシート	・講義 ・コメントシート記入	・今回の授業の復習 ・今回の授業内容を将来どのような看護場面に活かすことができるか考えておく（次回の授業時にコメントシート記入）	60
第13回 /	脳機能障害と心の働き（2） 心理病理、認知症、意識障害等の症例に学ぶ ・コメントシート	・講義 ・コメントシート記入	・今回の授業の復習 ・今回の授業内容を将来どのような看護場面に活かすことができるか考えておく（次回の授業時にコメントシート記入）	60
第14回 /	対人援助における心理学の役割 ・コメントシート	・講義 ・コメントシート記入	・今回の授業の復習 ・今回の授業内容を将来どのような看護場面に活かすことができるか考えておく（次回の授業時にコメントシート記入）	60
第15回 /	まとめ この科目で学んだことを将来の看護場面でどのように活かしていくか ・コメントシート	・講義 ・コメントシート記入	・今回の授業の復習 ・これまでの授業内容の復習	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目	暮らしと化学 Living and Chemistry	2単位	選 択	講 義	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	日常生活の中で無意識に接する「化学」に焦点を当て、自然界に存在する化学反応と人間が作り出した物質の変化とを考察する。人類の発展を支える一方で環境破壊を起こす二面性を知り、検証する。現代の便利な食を支える化学物質を通じ、日本人の食のありかたも考察する。					
	キーワード	自然界の物質循環 日本人の食料と化学	学修教育目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な化学反応式が書けるようになること。 2. 自然界の化学変化、特に光合成と呼吸の理解すること。 3. 化学と生活との結びつきを理解する。 4. 日本人の食と化学物質の関係の理解を目指す。 		

授業科目の概要及び学修上の助言

原則として講義形式で行う。必要に応じて演習を行う。基礎の部分の定着を図るために授業中に小テストを行う。高校で化学を履修していない学生も理解できるように基礎から行うが、指示通りに学修を積み上げて行くことが必要である。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

化学を扱う全ての科目の基礎となる。						
-------------------	--	--	--	--	--	--

教科書

参考書・リザーブドブック

書名：楽しく学ぶ 暮らしの化学 生活に生かせる化学の知識 著者名：瀬戸 守 出版社：(株)化学同人	書名：あなたと化学 暮らしを支える化学15講 著者名：齋藤勝裕 出版社：(株)裳華房 書名：身の回りから見た化学の基礎 著者名：芝原寛泰、後藤景子 出版社：(株)化学同人 書名：身の回りの化学—物質・環境・生命 著者名：大場好弘 出版社：(株)化学同人
---	--

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践		
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践		
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	基本的な化学についての理解を深め、身の回りの化学に関する事象に興味、関心を持つことができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	問題意識を持って積極的に授業に参加できる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	授業への参加だけでなく、試験や課題に備えた授業外での学修ができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	与えられたテーマに対してどのように取り組めばよいのか理解できる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	自然界での人間の振る舞いについて倫理観を持って考えることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	20	20				10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		40	15	5				5	65
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		10	5	5				5	25
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				10					10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
自然界での物質の循環や食糧生産における化学を理解し、自然界での人間のあり方について自分なりの考えを持つことができる。					化学の基本を理解し、普段の生活と関連付けることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス、 第I部 衣（飾る） 第1章 貴金属の化学	講義	授業内容の復習	60
第2回 /	第I部 衣（飾る） 第2章 香料、化粧品の化学	講義と演習	授業内容の復習	60
第3回 /	第I部 衣（飾る） 第3章 繊維、衣類の化学	講義と演習	授業内容の復習	60
第4回 /	第I部 衣（飾る） 第4章 石けん、洗剤の化学	講義と演習	授業内容の復習	60
第5回 /	第II部 食（食べる） 第5章 味の化学	講義と演習	授業内容の復習	60
第6回 /	第II部 食（食べる） 第6章 栄養の化学① 炭水化物、たんぱく質 第7章 栄養の化学② 脂質、ミネラル、ビタミン	講義と演習	授業内容の復習	60
第7回 /	第II部 食（食べる） 第8章 発酵の化学 レポート課題（1）	講義と演習	授業内容の復習	60
第8回 /	学習課題に対する発表・討論	講義と演習	授業内容の復習	60
第9回 /	第II部 食（食べる） 第9章 水の化学	講義	授業内容の復習	60
第10回 /	第III部 住（暮らす） 第10章 金属と文明の化学	講義と演習	授業内容の復習	60
第11回 /	第III部 住（暮らす） 第11章 薬と毒の化学 ビデオ（薬ってなあに、薬ができるまで・創薬ボランティア） レポート課題（2）	講義とビデオの視聴	授業内容の復習	60
第12回 /	第III部 住（暮らす） 第12章 色と光の化学 練習問題	講義と演習	授業内容の復習	60
第13回 /	第III部 住（暮らす） 第13章 家電と日用品の化学	講義と演習	授業内容の復習	60
第14回 /	第III部 住（暮らす） 第14章 電気と電池の化学	講義と演習	授業内容の復習	60
第15回 /	第III部 住（暮らす） 第15章 石油とプラスチックの化学 練習問題解説、まとめ	講義と演習	授業内容の復習	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目	アロマセラピー（癒しの文化） Aromatherapy（Cultures of Healing）	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	アロマセラピーは植物から得られる精油を用いた芳香療法のことでストレスケアに用いられる自然療法の一つです。使用方法としては芳香浴法やトリートメントなどがあり、香りの効果はもちろんタッチケアについても学び、体験していただきます。アロマセラピーを学ぶことで、心も身体も健康で人間関係や自然と調和のとれた生活を指すものです。					
	キーワード	アロマセラピー 香り ストレスケア トリートメント	学修教育目標	かおりの提案が出来る。 日本アロマ環境協会アロマセラピー検定1級合格。		

授業科目の概要及び学修上の助言

この授業では「香り」を楽しむための知識を習得できます。実際に1授業あたり2～3種類の香りを体験していただきます。香りはイメージを思いうかべながら体験すると記憶に残りやすいです。香りを使って行いたいことなどアイデアを思いついたらすぐにメモし、わからないことがあれば教員に相談してください。 授業内容は計画表を参考に予習をして受講ください。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

アロマセラピーの事だけでなく、健康、栄養、環境問題も取り上げます。「公衆衛生学」の理解につながります。						
---	--	--	--	--	--	--

教科書	参考書・リザーブドブック
書名：アロマセラピー公式テキスト 著者名： 出版社：世界文化社	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践		
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	年代別の注意点を理解している。	◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践	香りの使い方を選択、提案できる。	○
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践		
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	西洋医学、東洋医学、補完代替療法を理解できる。	△

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。	△
	② 働きかけ力	協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。	△
	③ 実行力	目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。	△
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	クライアントの無言の訴えに素早く気づく。	○
	② 計画力	不調を訴える人に対して香りの提案ができる。	◎
	③ 創造力	香りを言語化し表現できる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。	△
	② 傾聴力	クライアントの希望を的確に捉える。	○
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。	△
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。	△
	⑤ 規律性	社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。	△
	⑥ ストレスコントロール力	自他のストレスケアをし、ストレスコントロール力をつける。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動できる力	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	45						100
評価 の 指標	知識に関する評価		35	20						55
	技能に関する評価		5							5
	応用力に関する評価		5	10						15
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10	15						25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
日本アロマ環境協会 アロマセラピー検定1級合格					かおりの提案が出来る。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	アロマセラピーの基礎	講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 8～15 ページ	15
第2回 /	アロマセラピーの利用法	講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 32～54 ページ	15
第3回 /	精油について（1） 役割と作用	講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 16～18 ページ	15
第4回 /	精油について（2） 抽出方法	講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 19～21 ページ	15
第5回 /	精油と環境の深い関係、アロマセラピーの安全性	講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 24～31	15
第6回 /	アロマセラピーの歴史（1） ー先史時代～中世ー	講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 75～78 ページ	15
第7回 /	アロマセラピーの歴史（2） ー近世～現代ー	講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 79～86 ページ	15
第8回 /	精油の作用機序（メカニズム） 第1回 小テスト	講義 第1回小テスト	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 56～60 ページ 小テスト範囲 テキスト 8～54、75～86 ページ	90
第9回 /	健康学1 ー睡眠、ストレスー	講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 61～65 ページ	15
第10回 /	健康学2 ー女性ホルモン、スキンケアー	講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 66～74 ページ	15
第11回 /	アロマセラピーに関する法律	講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 87～92 ページ	15
第12回 /	日本アロマ環境協会	講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 130～136 ページ	15
第13回 /	最新のアロマセラピー研究について	講義	予習 授業内容 テキストを読む テキスト 137～141 ページ	15
第14回 /	第2回 小テスト	講義 第2回 小テスト	小テスト範囲 テキスト 56～74、87～92	60
第15回 /	総復習 検定試験対策	講義	苦手な箇所を抜き出して質問資料を作成しておくこと	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目	論文リテラシー Thesis Literacy	2単位	必修	講義	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>学生は、レポートにおける文章表現が適切にでき、学生生活において適応するための基礎力を養う。また、標準的なレポートや論文の作成方法、文章執筆における自己の考え方の表現を理解することができ、文章を執筆する際の発想力、表現技術をふまえ、レポート執筆の技術を修得することができる。</p>					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	ことばの概念 レポート・論文執筆 論理的思考 文章表現技術 文献引用技術	学修教育目標	1. ことばの概念を理解し、適切に表現することができる。 2. 文章の性質を理解し、それぞれの約束事に応じた文章の執筆ができる。 3. レポートや論文などの攻勢を理解し、論理的な文章の執筆ができる。 4. 論理的思考を用いて、自己の考えを主張することができる。
-------	--	--------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

この科目の目標は4つあり、1つは「ことば」を理解して、他者に理解してもらえるよう、適切に表現すること。2つ目は、文章の性質を理解して、レポートや卒業研究など、それぞれがもつ約束事に応じて、文章が執筆できること。3つ目は、レポートや卒業論文等の構造を理解して、論理的に文章が執筆できること。4つ目は、論理的思考を用いて、皆さんの考えを主張できることを目標にして、講義が展開される。そのためには、正しい日本語を使えることが大切である。学生は、小説や手記など、たくさん本を読むことをお勧めする。次に、論理的な文章を執筆するためには、学生自身が考え、そのことを文章に執筆できるようにすることが大切です。そのため、皆さんが思い、考えたことを、常日頃から文章にしておくことをお勧めする。最後に、レポートや論文の執筆にかかわるため、たくさん本を読み、他者の考えがどのように表現されているのか、考えをどのように表現されているのかということ意識しておくことが重要となる。そのため、看護学に関する本だけではなく、社会学・教育学・心理学・哲学などが掛かっている本も読むことをお勧めする。更に、本だけではなく看護系の論文を読み、どのように書かれているのか、どのように結果が記載され、その結果をどのように考察されているかを意識して、論文を読んでおくことをお勧めする。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

- 日本語表現(現代文)
- 日本語文法

教科書	参考書・リザーブドブック
なし	書名：レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド 著者名：佐渡島沙織・坂本麻裕子・大野真澄 著編 出版社：大修館書店

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践	看護の対象となる人々の看護実践を円滑におこなうため知識・技能を明らかにし、実習で活用することができる。	◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	看護の対象となる人々の看護実践のために知識を学び、その成果をあらゆる人々に文章で伝えることができる。	◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践	看護の対象となる人々の看護実践を円滑におこなうため知識・技能を探究し、その成果を文章にすることができる。	◎
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	看護の対象となる人々の健康・健康障害をふまえ、起こっている現象を表現することができる。	△
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	看護の対象となる人々の健康を維持するために、起こっている現象を明らかにすることができる。	△

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	講義・演習で明らかにした結果や自身の考えを表現することができる。	◎
	② 働きかけ力	与えられたまたは自身で明確にした課題を明らかにすることができる。	○
	③ 実行力	課題を探究することができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自身が考えた課題を文章に表現することが出来る。	○
	② 計画力	与えられたまたは自身が見出した課題を計画的に探究することができる。	○
	③ 創造力	課題で明らかになった結果を考察することができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	明らかにした結果を他者に伝えることができる。	△
	② 傾聴力	他者が明らかにした結果を考えながら聴くことができる。	△
	③ 柔軟性	明らかにした結果をさまざまな視点から考えることができる。	○
	④ 状況把握力	自身が明らかにした結果について、他者から意見を貰うことができる。	△
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力	自身の能力を理解し、課題を明らかにすることができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	他者が理解できるように文章を表現することができる。他者の考えと自身の考えを分けて考えることができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		50					100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		10		10					20
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力		20		20					40
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力		20		20					40
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への 継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策 化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>学生自身が見出した課題を、三段論法を用いて明らかにし、適切な日本語表現を用いながら根拠の説明および考察をおこない、レポートを執筆することができている。</p>					<p>学生自身が見出した課題を、三段論法を用いて明らかにし、自身が出した結論に裏付けをおこない、レポートを執筆することができている。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	コースオリエンテーション 用途による文章スタイルについて(感想文・レポート・論文)	講義	復習: 第1回の授業内容について復習する。	30
第2回 /	敬語の基礎	講義	復習: 敬語の使い方を復習する。	30
第3回 /	メールと手紙の執筆方法について	講義	復習: メールの執筆方法について復習する。	30
第4回 /	話し言葉と書き言葉 論文における語彙	講義	復習: 論文に用いる語彙を調べる。	30
第5回 /	レポートの執筆手順 発想から文章校正について	講義	復習: 中間レポートの構想を立てる。	30
第6回 /	論文の構造と執筆における作法	講義	復習: 中間レポートを執筆する。	60
第7回 /	結論の裏付け 文献引用の約束事項(剽窃についても含む)	講義	復習: 中間レポートを執筆する。	60
第8回 /	数値やデータにおける図表による表現方法	講義	復習: 数値・データの表現方法について復習する。	30
第9回 /	事実と意見の違いについて	講義	復習: 事実と意見の違いについて復習する。	30
第10回 /	前提とその反論について	講義	復習: 前提と反証の違いについて復習する。	30
第11回 /	問いと答えを作り出す(論証について)	講義	復習: 論証について復習する。	30
第12回 /	論理的な文章表現や校正とは	講義	復習: 最終レポートの構想を立てる。	30
第13回 /	アウトラインの作り方	講義	復習: 最終レポートのアウトラインを作る。	60
第14回 /	アウトラインとパラグラフについて	講義	復習: 最終レポートのアウトラインを使って、文章を執筆してみる。	60
第15回 /	まとめ	講義	復習: 全15回の授業内容について復習する。	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目	コミュニケーション論 The Theory of Communication	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>プライベートでも仕事でも人間関係の形成にコミュニケーション力は欠かせず、そこには言葉のやりとりの相互性が流れていることが望ましい。普段意識せずに行っている対人活動・コミュニケーションを、「相互性を考えながら工夫していくこと」を、学習して欲しい。やりとりするのは、主に意味とかんじょうである。情報伝達＝コミュニケーション、というだけではない。情報を伝達するだけでなく、感情を伝え合い、分かち合うことも、またコミュニケーションの重要な役割である。</p>					
キーワード	<p>コミュニケーション力 ミスコミュニケーションを防ぐ 自分と対話し、ことばを探す 目を見る・微笑（ほほえ）む・顔（うなず）く・相槌（あいづち）を打つ</p>	学修教育目標	<p>伝えたい気持ちに含まれている意味や感情を言葉や表情や行動の微妙な使分けや、間合いの時間差や、相手との距離間隔、繰り返し回数など工夫を心がける態度が強化されます。</p>			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>社会人として、そして医療においても、人と良好なコミュニケーションを交換して、そのための諸知識の習得を目指す。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<p>看護学、医学において、共に医療に関わり、患者といかに対面し、共同していくかの総合的知識と技能。</p>						
教科書			参考書・リザーブブック			
<p>書 名：コミュニケーション力 著者名：斎藤孝 出版社：岩波書店・岩波新書</p>			なし			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践					
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践					
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践	ケア提供を正確にできるように情報を管理する力を身に着ける。				○
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践					
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	健康な生活づくりを促進するため情報提供する資料作りができる。				◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備をしっかりと行い、積極的に計画を立てて学習能力をたかめることができる。				○
	② 働きかけ力	グループディスカッションでは他の学生に働きかける。				◎
	③ 実行力	課題を時間内に仕上げる。				○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	課題の問題を発見する。				○
	② 計画力	課題を仕上げ、受講準備を計画的に行える。				○
	③ 創造力	効率化と正確さを意識することができる。				○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	他人に質問する。				◎
	② 傾聴力	他人の発言をよく聞く。				◎
	③ 柔軟性	いろいろな手法を考える力が高められる。				○
	④ 状況把握力	グループの周りの空気を察知する。				◎
	⑤ 規律性	受講態度を快適にコントロールすることができる。				○
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	コーポレートガバナンスを理解する。				○

※1 ◎授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎効果的に発揮できる力が身に付く ○通常の状況で発揮する力が身に付く △身に付くことが期待できる能力

達成度評価									
指標と評価割合		試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合		50	30	20					100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力	10	10	10					30
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力	10	10	10					30
	特定の健康課題に対応する実践能力								
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力	10							10
	専門職者として研鑽し続ける基本能力	10							10
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力								
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力								
	地域の健康危機管理能力								
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力								
	専門的自立と継続的な質の向上能力	10	10						20
具体的な達成の目安									
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安				
患者のさまざまな情報を管理し、情報を活用できる。					医療データを管理できるアプリケーションの基本的な力を習得する。				

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	コミュニケーションとは？	講義 受講アンケート調査	教科書	30
第2回 /	「聞き上手」	課題返却 講義 小テスト	文献資料	30
第3回 /	ディベート乱用の危険性	講義 小テスト	教科書	30
第4回 /	「効果的な話し方」	講義 小テスト	文献資料	30
第5回 /	自分と対話し言葉を探す	講義 小テスト	教科書	30
第6回 /	「コミュニケーションとは話した言葉以上のもの」	講義 小テスト	文献資料	30
第7回 /	「ていうか」症候群・文脈力	講義 小テスト	教科書	30
第8回 /	再度「聞き上手」	講義 小テスト	文献資料	30
第9回 /	会話で迷子になる	講義 小テスト	教科書	30
第10回 /	「傾聴を妨げる要素をなくすには？」	講義 小テスト	文献資料	30
第11回 /	コミュニケーションするからこそ家族	講義 小テスト	教科書	30
第12回 /	言葉は体験が作り出す	講義 小テスト	文献資料	30
第13回 /	コミュニケーションの基盤	講義 小テスト	教科書	30
第14回 /	「人は、どのようなときに説得されるか？」	講義 小テスト	文献資料	30
第15回 /	コミュニケーション論のまとめ	講義 小テスト	教科書	30

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目	AI と科学 AI and Science	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	人工知能(AI: Artificial Intelligence)の基本的な考え方やその基礎となる関連分野を学修することを目的とする。特に、医療分野における AI に関する活用について、考えることができる。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	人工知能とは ディープラーニング 医療 AI シンギュラリティ 知的生命体	学修教育目標	1) AI の基本的な考え方を学ぶことができる。 2) 医療分野における AI の活用法について、自身で考え、意見を述べるすることができる。 3) AI を学び、AI 時代に身につけるべき能力について学ぶ。			
-------	---	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

テキストと参考用に配布するプリントを中心に AI（人工知能）に関する基本的な知識について講義を行う。また、都度アンケートを記入して提出してもらう。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

情報処理関係の各科目について基本的な理解をしていること。また、医療情報の基礎的な理解もしていること。						
--	--	--	--	--	--	--

教 科 書			参考書・リザーブブック			
書 名：図解まるわかり AI のしくみ 著者名：三津村直貴 出版社：翔泳社			なし			

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践	人が生活する中で、対象に用いられる医療機器など、理解することができる。	○
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	各発達段階における対象が、生活する病棟・施設などをふまえ、対象に適した医療機器について理解することができる。	○
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践	対象のライフサイクルに合わせた看護援助の中で、医療機器に対する知識を生かすことができる。	○
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践		
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことを見極め、自発的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	共同して問題に取り組むよう、他者に働きかけ学修を進めることができる。	◎
	③ 実行力	実際に意見を発表して、他者の同意を求める。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出している。	○
	② 計画力	課題の解決に向けて、実践的・論理的な方法を明らかにすることができる。	◎
	③ 創造力	従来常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を論理的に他者に伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	自分の意見を持ちつつ、他人の意見も共感を持つことができる。	◎
	③ 柔軟性	自らの考えにとらわれることなく、意見の違いを理解することができる。	◎
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。	○
	⑤ 規律性	社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	相手の意思決定や権利を尊重しながら、正しい日本語を用いて、自身の考えを伝えることができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		30				20	100
評価 の 指 標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力									
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への 継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策 化する能力		50		30				20	100
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
到達目標の評価がS評価					到達目標の評価がA～B評価					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション AI とは？ 1-2 Ai の急速な進化と停滞	講義	予習：第1回の学修内容を予めテキストで予習する。 復習：今回の内容を復習しておく。	50
	講義についてのアンケート			
第2回 /	AI やプログラムの基本的なしくみ	講義	予習：前回の授業内で指示した内容を予めテキストで予習する。 復習：今回の内容を復習しておく。	50
	講義についてのアンケート			
第3回 /	AI にとってのデータの取り扱い	講義	予習：前回の授業内で指示した内容を予めテキストで予習する。 復習：今回の内容を復習しておく。	50
	講義についてのアンケート			
第4回 /	AI におけるデータサイエンスと統計	講義	予習：前回の授業内で指示した内容を予めテキストで予習する。 復習：今回の内容を復習しておく。	50
	講義についてのアンケート			
第5回 /	データを正しく扱うことの難しさ エキスパートシステム	講義	予習：前回の授業内で指示した内容を予めテキストで予習する。 復習：今回の内容を復習しておく。	50
	講義についてのアンケート			
第6回 /	機械学習に関わる技術 統計から判断基準を作りあげる、ネットワークを使った機械学習	講義	予習：前回の授業内で指示した内容を予めテキストで予習する。 復習：今回の内容を復習しておく。	50
	講義についてのアンケート			
第7回 /	ネットワークを使った機械学習	講義	予習：前回の授業内で指示した内容を予めテキストで予習する。 復習：今回の内容を復習しておく。	50
	講義についてのアンケート			
第8回 /	発展を遂げる強化学習	講義	予習：前回の授業内で指示した内容を予めテキストで予習する。 復習：今回の内容を復習しておく。	50
	講義についてのアンケート			
第9回 /	ディープラーニング	講義	予習：前回の授業内で指示した内容を予めテキストで予習する。 復習：今回の内容を復習しておく。	50
	講義についてのアンケート			
第10回 /	ニューラルネットワーク	講義	予習：前回の授業内で指示した内容を予めテキストで予習する。 復習：今回の内容を復習しておく。	50
	講義についてのアンケート			
第11回 /	ディープラーニングへの道筋	講義	予習：前回の授業内で指示した内容を予めテキストで予習する。 復習：今回の内容を復習しておく。	50
	講義についてのアンケート			
第12回 /	言葉の意味を数値で表す方法	講義	予習：前回の授業内で指示した内容を予めテキストで予習する。 復習：今回の内容を復習しておく。	50
	講義についてのアンケート			
第13回 /	画像から動画に発展する映像認識	講義	予習：前回の授業内で指示した内容を予めテキストで予習する。 復習：今回の内容を復習しておく。	50
	講義についてのアンケート			
第14回 /	AI の進化と成長を促すゲーム AI	講義	予習：前回の授業内で指示した内容を予めテキストで予習する。 復習：今回の内容を復習しておく。	50
	講義についてのアンケート			
第15回 /	授業全体の総括	講義	復習：今回の内容を復習しておく。	50
	講義についてのアンケート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目	生物学 Biology	2単位	選 択	講 義	1年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	ヒトは生物の一員である。また、ヒトは多種多様な生物と相互関係の中で生きている。また、生命科学が進歩し新しい事実が追加されている。このような中で、生命とは何か、人間とは何か、看護とは何かを考えることを目的としている。					
	キーワード	生命のしくみ 生命現象と看護 生命科学 多種多様な生物	学修教育目標	本講義では、様々な生命現象について学び、生物学の基礎的知識と、生物学を通して人間を理解する視点を養うことができる。さらに、周囲の自然環境に興味を持ち、積極的に観察する能力を身に付けるようになる。		
授業科目の概要及び学修上の助言						
生物学は動物の生命現象を扱い、看護の基本となるので、生命の基本現象のしくみを理解する。小テストや国家試験模擬試験などで覚えやすくするので、その都度覚えてほしい。分からないことがあれば、授業内・授業外を問わず質問し、解決しておくこと。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
生理学・栄養学との関連が強い。						
教科書				参考書・リザーブドブック		
書名：系統看護学講座 基礎分野 生物学（第10版） 著者名：高畑 雅一 他 出版社：医学書院				書名：細胞の分子生物学 著者名：中村 佳子、松原謙一 監訳 出版社：ニュートンプレス		
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践					
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践					
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践					
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践					
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	生物学の基礎的知識を理解し、生物学を通して人間を理解することができる。				○
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備、課題、小テストなどに主体的に取り組むことができる。				◎
	② 働きかけ力					
	③ 実行力	積極的に自分自身で予習して理解することができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	分かることを明確にして課題や小テストに取り組める。				○
	② 計画力	計画的に学修内容を理解していける。				○
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力	他者の意見や説明を丁寧に聞いて理解できる。				○
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性					

※1 ◎授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメンタリー等)	合計
総合評価割合			55	30	10				5	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		55	30	10				5	100
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への 継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策 化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
生物学のあらゆる生命現象を理解し、疾病や看護技術との関連を理解できる。 国家試験問題に対して正答を出せる。					生物学の個々の生命現象について理解できる。 疾病や看護技術との対応を理解できる。 関連の国家試験問題に正答を出せる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	生物学を学ぶにあたって 生命観とその変遷 生物とはなにか 生命とはなにか 看護・医学の基礎科学としての生物学	講義	予習・復習	30
第2回 /	生命体のつくりとはたらき 生物学における構造と機能 細胞とその構造 細胞の化学成分 細胞膜の輸送 細菌とウイルス	講義 小テスト	予習・復習	30
第3回 /	生体維持のエネルギー 生体内の化学反応 ATP の生合成	講義 小テスト	予習・復習	30
第4回 /	細胞の増殖とからだのなりたち 細胞分裂 細胞の分化と個体のなりたち 細胞の老化	講義 小テスト	予習・復習	30
第5回 /	遺伝情報とその伝達・発現のしくみ① 遺伝の法則と染色体 遺伝情報の担い手-DNA 核酸 DNA の複製	講義 小テスト	予習・復習	30
第6回 /	遺伝情報とその伝達・発現のしくみ② 遺伝情報の伝達-RNA タンパク質の合成-翻訳 遺伝子組換え技術とゲノムの構造解析法	講義 小テスト	予習・復習	30
第7回 /	遺伝情報とその伝達・発現のしくみ③ 変異 ヒトの遺伝 遺伝子組換えの応用	講義 小テスト	予習・復習	30
第8回 /	生殖と発生 無性生殖と有性生殖 動物の受精と発生 哺乳類の発生	講義 小テスト	予習・復習	30
第9回 /	個体の調節 ホメオスタシス 各器官系のはたらき 神経性相関 液性相関 無脊椎動物のホルモン	講義 小テスト	予習・復習	30
第10回 /	刺激の受容と行動① 神経系における情報処理の特徴-電気信号 環境の情報とその受容	講義 小テスト	予習・復習	30
第11回 /	刺激の受容と行動② 神経系の情報伝達 神経系の系統的発達	講義 小テスト	予習・復習	30
第12回 /	刺激の受容と行動③ 効果器のはたらき 行動	講義 小テスト	予習・復習	30
第13回 /	生命の進化と多様性 化学進化と生命の起源 生物の多様化と絶滅の歴史 生物の分類と系統 ヒトの起源と進化 進化のしくみ	講義 小テスト	予習・復習	30
第14回 /	生物と環境のかかわり 生物の集団 動物の社会 生態系の経済 生態系の物質循環	講義 小テスト	予習・復習	30
第15回 /	地球環境とヒトとの共存 人間活動による環境への影響 生物多様性の保全	講義 小テスト	復習	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
総合教養科目 基本教養科目	アセンブリ・アワー Assembly Hour	4単位	必修	演習	1年次 ～4年次	春学期・ 秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、将来、社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、学修研究に対する具体的な取り組み方、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。</p>					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	<p>心身の調和 自主的・実践的態度 学生生活 個人・社会の一員としての在り方</p>	学修教育目標	<p>個人及び社会の一員としての在り方を理解し、学生生活を充実させ、将来の生き方と進路の適切な選択決定ができる。</p>			
-------	---	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>総合教養科目の一つとして位置づけられており、教科目での学修だけでは学べない内容やアセンブリクラスとしての取り組みなどを計画する。国家試験対策や就職に向けての学修、大学祭への取り組み、他学年との交流など多彩な内容が盛り込まれている。積極的に学びましょう。</p>						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能については特にありません。</p>						
---	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
資料を適宜配付する。			資料を適宜配付する。			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践					
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	多様な視点・他者の価値観を受け入れ、視野を広げることができる。				◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践	さまざまな取り組みにおいて、自身の役割を考え行動することができる。				◎
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践					
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践					

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	色々な取り組みに自ら取り組むことができる。				◎
	② 働きかけ力	他者に働きかけ、共に行動できるよう努めることができる。				◎
	③ 実行力	考えや計画に基づき、行動に起こすことができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力					
	② 計画力	目標を達成するために必要な計画を立てることができる。				◎
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自身の考えを他者に対し、どのように伝えることが効果的かを考え表現することができる。				◎
	② 傾聴力	他者の考えや意見に耳を傾けることができる。				◎
	③ 柔軟性	他者の発する意見についてその意味を考え理解しようと努めることができる。				○
	④ 状況把握力	話し合いや実際の行動において、周囲に目をやり現状をつかもうと努めることができる。				◎
	⑤ 規律性	グループ内でのルール、科目における規律を遵守し協力することができる。				◎
	⑥ ストレスコントロール力	自身の抱えている不安や疑問をどのようにすれば解決できるのかを考える、または相談できる。				○
4. 倫理観	① 倫理性					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>毎回出席し、各回に計画された課題に積極的に取り組み メンバーとも協力して理解を深めることができる。</p>					<p>毎回出席し、課題には取り組む姿勢はみられる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回	<p>【1年次】 (春学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> 春学期アセンブリ・アワー計画表配布説明し、アセンブリ・アワーの予定を理解する。 履修登録科目の再確認をする。 春学期の自己目標について配布する。(4/12 提出) 個人票配布する。(4/15 提出) ワクチン抗体価陽性の必要性について理解する。 母子保健手帳のワクチン接種記録のコピー(4/12 提出) オープンキャンパスおよびオープンキャンパス学生スタッフについてクラス委員の種類と役割を説明し、ユニットごとに役割を決める。 <p>(秋学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> 秋学期アセンブリ・アワー計画表を見、説明を聞いて自己の目標、計画を立案する。 ユニット委員の選出ができる。 <p>【2年次】 (春学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> 春学期の目標および学修計画表配布 個人票・社会人基礎力の回収 1年生交流会の企画 内容検討・資料準備 面談 <p>(秋学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> 秋学期の目標および学修計画表配布と記載 社会人基礎力の記載と回収 委員選出 <p>【3年次】 (春学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション クラス委員・行事担当者選出 面談について 社会人基礎力・個人票提出 <p>(秋学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各領域実践実習に参加し、学修を深める。 <p>【4年次】 (春学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国家試験対策ガイダンス 1年間の予定 委員選出 社会人基礎力事前提出 個人票回収 <p>(秋学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> 秋学期国家試験対策ガイダンス 社会人基礎力事前提出 面接 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・グループワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の学修内容の復習 ・次回の学修内容の予習 	<p>予習 30</p> <p>復習 30</p>
第2回	<p>【1年次】 (春学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> 春学期自己目標・個人票・ワクチン調査票、母子手帳のワクチン接種記録のコピーの提出をする。 社会人基礎力評価シートの記載の意味と記載方法を理解し、記載する。 ユニットごとに自己紹介をし、交流を深める。 課題：2年次生に聞きたいことを考えてくる。 <p>(秋学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> 秋学期自己目標・社会人基礎力評価シートの提出をする。 文章の書き方についての個人学修 50分、グループワーク 30分をする。 学んだ内容を発表する。 <p>【2年次】 (春学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生との交流会で話すことを決める。 <p>(秋学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> 面談 夏季休暇中の出来事に対する1~2分間スピーチ <p>【3年次】 (春学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国家試験対策 WEB フルプラン、実際に使ってみよう。 iPad を持参すること <p>(秋学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各領域実践実習に参加し、学修を深める。 <p>【4年次】 (春学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職ガイダンス 倫理について 接遇動画鑑賞と自己の振り返り <p>(秋学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国家試験対策 確認テスト 基礎看護 確認テスト関連学修 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・グループワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の学修内容の復習 ・次回の学修内容の予習 	<p>予習 30</p> <p>復習 30</p>

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第3回	<p>【1年次】 (春学期) 基礎実習室(N201)使用方法・注意事項について説明を聞き理解する。 (2年次生が説明) 2年次生との交流会 (秋学期) ・看護師の一日の行動(身だしなみ、感染予防行動、観察、コミュニケーション、報告、処置など)の画像や動画を見て、看護師の活動をイメージし行動の意味を理解する。 ・手指消毒の演習</p> <p>【2年次】 (春学期) ・1年次生との交流会 ・実習室の使い方の説明 (秋学期) ・国家試験対策① 基礎的な問題</p> <p>【3年次】 (春学期) ・模擬テストの実施(60分)採点(30分) (秋学期) ・各領域実践実習に参加し、学修を深める。</p> <p>【4年次】 (春学期) ・国家試験対策 確認テスト (秋学期) ・国家試験対策 確認テスト 母性看護 確認テスト関連学修</p>	<p>・講義 ・グループワーク</p>	<p>・今回の学修内容の復習 ・次回の学修内容の予習</p>	<p>予習 30 復習 30</p>
第4回	<p>【1年次】 (春学期) ・さつき祭について説明を受ける。看護学部の学生としての特徴を含んださつき祭の出し物を決定する。 ・GWの過ごし方(飲酒、喫煙、ローン、SNSについて) (秋学期) ・文書の読み方について個人学修50分、グループワーク30分をする。 ・学んだ内容を発表する。</p> <p>【2年次】 (春学期) ・さつき祭の準備① ・面談 (秋学期) ・国家試験対策② 前回の問題</p> <p>【3年次】 (春学期) ・小グループに分かれて4年次生から聞かせてほしい内容をまとめ、交流会に招待する準備を行う。 (秋学期) ・各領域実践実習に参加し、学修を深める。</p> <p>【4年次】 (春学期) ・国家試験対策 確認テスト (秋学期) ・国家試験対策 確認テスト 老年看護 確認テスト関連学修</p>	<p>・講義 ・グループワーク</p>	<p>・今回の学修内容の復習 ・次回の学修内容の予習</p>	<p>予習 30 復習 30</p>
第5回	<p>【1年次】 (春学期) ・PROGテストの結果の見方の説明を受け、自己の自分の強みを知る。また、伸ばしたいジェネリックスキル、コンピテンシースキルについて考え、春学期の目標を考える。 (秋学期) ・カンファレンスとは、実施する意味、効果的なカンファレンスをするための準備、進め方について説明をする。 ・運営方法の演習</p> <p>【2年次】 (春学期) ・倫理① グループワーク (秋学期) ・倫理① DVD鑑賞</p> <p>【3年次】 (春学期) ・倫理教育①：領域実習にむけ、看護大学生としてのマナーや規則について学ぶ。 (秋学期) ・各領域実践実習に参加し、学修を深める。</p> <p>【4年次】 (春学期) ・国家試験対策 さわ研究所 14:40～ガイダンス 15:00～講義～16:40 (秋学期) ・国家試験対策 確認テスト看護の統合と実践 確認テスト関連学修</p>	<p>・講義 ・グループワーク</p>	<p>・今回の学修内容の復習 ・次回の学修内容の予習</p>	<p>予習 30 復習 30</p>

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第6回	<p>【1年次】 (春学期) ・さつき祭準備 (秋学期) ・提示された問題について個人学修15分、カンファレンスを20分する。 ・講評を受けた後、討議した内容を発表する。</p> <p>【2年次】 (春学期) ・さつき祭の準備② (秋学期) ・倫理② グループワーク</p> <p>【3年次】 (春学期) ・倫理教育②：発表準備 (秋学期) ・各領域実践実習に参加し、学修を深める。</p> <p>【4年次】 (春学期) ・国家試験対策 確認テスト (秋学期) ・国家試験対策 確認テスト 必修目標IV 確認テスト関連学修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク ・資料作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の学修内容の復習 ・次回の学修内容の予習 	<p>予習 30</p> <p>復習 30</p>
第7回	<p>【1年次】 (春学期) ・さつき祭を実施した後の振り返りをユニットごとに行う。 ・e-learning で図書館の利用の仕方を学修する。 ・課題：消火器、避難器具、AED の場所を調べておく (秋学期) ・心臓、肺、心臓と肺に関連した血管を図示する。 ・心臓と肺の構造、心臓と肺に関連した血管について的小テスト実施。</p> <p>【2年次】 (春学期) ・国家試験（必須問題） (秋学期) ・ボランティア活動①</p> <p>【3年次】 (春学期) ・4年次生との交流会 (秋学期) ・各領域実践実習に参加し、学修を深める。</p> <p>【4年次】 (春学期) ・3年次生との交流会 (秋学期) ・国家試験対策 確認テスト必修目標I 確認テスト関連学修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・グループワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の学修内容の復習 ・次回の学修内容の予習 	<p>予習 30</p> <p>復習 30</p>
第8回	<p>【1年次】 (春学期) ・避難訓練 ・課題提出：看護学部棟の避難経路、消火器、避難器具、AED の場所について調べたことを提出する。 (秋学期) ・看護職の倫理綱領を配布し説明を行う。 ・個人学修15分、グループワーク20分をする。 ・学んだ内容を発表する。</p> <p>【2年次】 (春学期) ・3年次生と交流会準備 ・国家試験直し (秋学期) ・ボランティア活動②</p> <p>【3年次】 (春学期) ・2年次生との交流会の準備 (秋学期) ・各領域実践実習に参加し、学修を深める。</p> <p>【4年次】 (春学期) ・国家試験対策 確認テスト (秋学期) ・国家試験対策 確認テスト 確認テスト関連学修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・グループワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の学修内容の復習 ・次回の学修内容の予習 	<p>予習 30</p> <p>復習 30</p>

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第9回	<p>【1年次】 (春学期) ・「口から胃までの構造と働き」についての効果的な学修方法やノート作りについて、調べ、話し合う。 大学生の学びのハンドブック、インターネットを参考にする。 各自がノート作りをする。 (秋学期) ・循環器系と呼吸器系の関連と影響についてのグループ学修後、グループで説明しあう。 ・呼吸器系、循環器系の機能についての小テスト実施</p> <p>【2年次】 (春学期) ・3年次生と交流会 (秋学期) ・キャリアアップセミナー</p> <p>【3年次】 (春学期) ・2年次生との交流会 (秋学期) ・各領域実践実習に参加し、学修を深める。</p> <p>【4年次】 (春学期) ・国家試験対策 確認テスト (秋学期) ・国家試験対策 確認テスト 50問 確認テスト関連学修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・グループワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の学修内容の復習 ・次回の学修内容の予習 	<p>予習 30 復習 30</p>
第10回	<p>【1年次】 (春学期) ・「口から胃までの構造と働き」についての学修とノート作りをする。 (秋学期) ・時事問題について個人で調べ学修</p> <p>【2年次】 (春学期) ・確認問題（基礎の問題） (秋学期) ・さわ模試</p> <p>【3年次】 (春学期) ・倫理教育③：発表会に参加することができる。 ・作成した資料をもとに発表する。 ・看護大学生としての倫理行動を意識しながら参加する。 (秋学期) ・各領域実践実習に参加し、学修を深める。</p> <p>【4年次】 (春学期) ・国家試験対策 確認テスト (秋学期) ・国家試験対策 確認テスト 50問 確認テスト関連学修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・グループワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の学修内容の復習 ・次回の学修内容の予習 	<p>予習 30 復習 30</p>
第11回	<p>【1年次】 (春学期) ・解剖生理の学修の仕方を学ぶ。(学修ガイダンス、予備校講師による解剖生理の講義とノートのとり方) (秋学期) ・臨地での様々な報告について ・看護師に話しかけない方が良いタイミング、報告しても良いタイミング、報告の順序。 ・緊急性が高い報告事項、患者のそばを離れてはいけな場面。 ・適切で簡潔な報告のための準備について ・演習</p> <p>【2年次】 (春学期) ・倫理② グループワーク（看護について考える） (秋学期) ・模試の振り返り</p> <p>【3年次】 (春学期) ・国家試験模擬テスト（さわ模試）を通し知識の確認をする② ・さわ模試（50分）採点（40分） (秋学期) ・各領域実践実習に参加し、学修を深める。</p> <p>【4年次】 (春学期) ・国家試験対策 確認テスト (秋学期) ・国家試験対策 確認テスト 50問 確認テスト関連学修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・グループワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の学修内容の復習 ・次回の学修内容の予習 	<p>予習 30 復習 30</p>

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第12回	<p>【1年次】 (春学期) ・確認テスト(口から胃までの構造と働き)を実施する。 ・テストのやり直しをする。 (秋学期) ・調べ学修の内容の共有 ・何をどう発表するかについて検討 ・パワーポイント作成 ・発表</p> <p>【2年次】 (春学期) ・課題学習：倫理の感想・学んだことを実習にどう活かすかなど、倫理 ①・②の両方から学んだことを提出。 (秋学期) ・模試の振り返り</p> <p>【3年次】 (春学期) ・国家試験模擬テストを通し知識の確認をする③ ・模擬テストの実施（60分）採点（30分） (秋学期) ・各領域実践実習に参加し、学修を深める。</p> <p>【4年次】 (春学期) ・総合実習（課題学修） (秋学期) ・国家試験対策 確認テスト 50問 確認テスト関連学修</p>	<p>・講義 ・グループワーク</p>	<p>・今回の学修内容の復習 ・次回の学修内容の予習</p>	<p>予習 30 復習 30</p>
第13回	<p>【1年次】 (春学期) ・文章の構成、文章作成時のルールを学ぶ。 ・レポートの書き方のルールに沿い、レポートを e-learning の課題提出 に提出できる。 (秋学期) ・予測されている災害、できる準備、・まずすべきこと、学生ができる応 急処置についての調べ学修とパワーポイント作成。 ・課題：携帯できる災害グッズについて</p> <p>【2年次】 (春学期) ・国家試験問題（解剖生理・薬理学等） (秋学期) ・基礎看護学実践実習Ⅱにむけて</p> <p>【3年次】 (春学期) ・キャリアサポート：マイナビより就職準備講座 (秋学期) ・各領域実践実習に参加し、学修を深める。</p> <p>【4年次】 (春学期) ・総合実習（課題学修） (秋学期) ・国家試験対策 確認テスト 50問 確認テスト関連学修</p>	<p>・講義 ・グループワーク</p>	<p>・今回の学修内容の復習 ・次回の学修内容の予習</p>	<p>予習 30 復習 30</p>
第14回	<p>【1年次】 (春学期) ・感染予防対策について、飲酒・喫煙について、SNSについて説明す る。 ・講義を聞いて理解を深める。 ・自己目標返却・社会人基礎力事後シートの記載 (秋学期) ・養護教諭の役割と養護教諭になるための学修や試験についての説明 ・保健師の役割と保健師になるための学修や試験についての説明 ・課題：社会人基礎力シート記載</p> <p>【2年次】 (春学期) ・国家試験問題の振り返り (秋学期) ・マイナビ「実習の心構え」</p> <p>【3年次】 (春学期) 認知症サポーター養成研修 講師：堺市美原地域包括支援センターより (秋学期) ・各領域実践実習に参加し、学修を深める。</p> <p>【4年次】 (春学期) ・国家試験対策 さわ研究所必修模試 (秋学期) ・国家試験対策 確認テスト 50問 確認テスト関連学修</p>	<p>・講義 ・グループワーク</p>	<p>・今回の学修内容の復習 ・次回の学修内容の予習</p>	<p>予習 30 復習 30</p>

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第15回	<p>【1年次】 (春学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春学期の自己目標の評価提出 ・社会人基礎力事後評価シートの提出 ・タイムカプセル作成する。卒業時の私に向けて、メッセージを残す。 (レターセットは各自で準備すること) <p>(秋学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人目標の振り返り ・社会人基礎力についての振り返り ・基礎看護学実践実習Ⅰに向けた様々な準備と留意点について <p>【2年次】 (春学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春学期学修計画の評価 ・夏季休暇中の学習および活動計画作成 ・「社会人基礎力事後評価シート」記入 ・面談 <p>(秋学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋学期学修計画の評価 ・前回の「実習の心構え」について ・休暇中の学習および活動計画作成 ・「社会人基礎力事後評価シート」記入 <p>【3年次】 (春学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の課題から秋学期領域実習に向けて課題や改善策を計画・提出 ・社会人基礎力事後自己評価シート提出、実習ガイダンス <p>(秋学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各領域実践実習に参加し、学修を深める。 <p>【4年次】 (春学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季休暇の過ごし方 ・国家試験対策講座について ・社会人基礎力事後提出 <p>(秋学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験までの過ごし方計画について ・社会人基礎力事後提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・グループワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の学修内容の復習 	<p align="center">復習 30</p>

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。